

平成 26 年度 青葉区区民意識調査 調査結果報告書 — 概要版 —

平成 26 年度青葉区区民意識調査 調査概要

調査の目的	青葉区にお住まいの皆さまの生活意識や区政に対する満足度、要望等を的確に把握し、今後の区政運営に活かしていくことを目的とする。
調査対象	青葉区内在住の 16 歳以上の男女 3,000 人（うち外国人 60 人）
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
調査方法	郵送によるアンケート方式
回答率	49.0%（有効回答者数 1,469 人）
調査期間	平成 26 年 6 月 9 日～6 月 23 日
設問分野	生活環境、定住意向、地域活動・地域社会、地域福祉、広報、読書活動、区制 20 周年、健康 等
図表の見方	図（グラフ）の中で使用されているアルファベットの意味は次のとおり。 M A : 複数回答（マルチアンサー）の設問 N : その設問に対する回答者数

平成26年度 青葉区区民意識調査

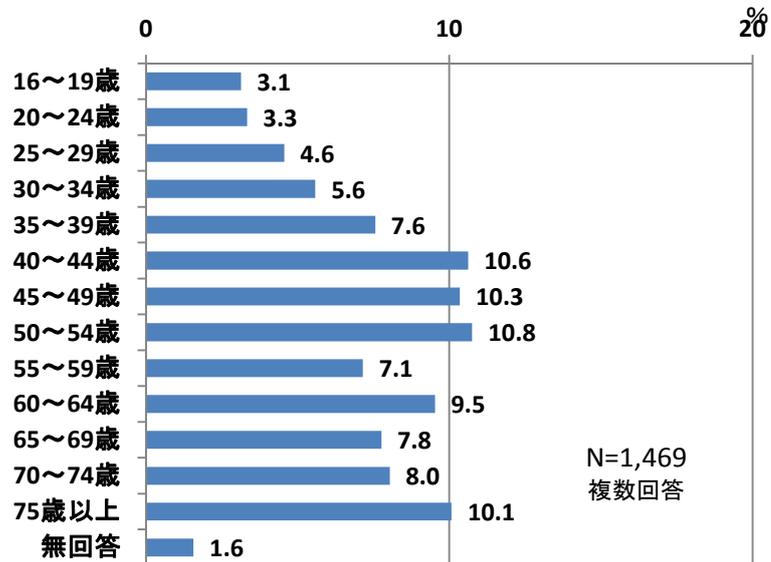
目 次

回答者の属性	2
調査結果の概要	6
1. 住まいの周辺の生活環境について	6
2. 定住意識について	11
3. 青葉区、横浜市への愛着について	12
4. 地域と生活について	13
5. 地域の福祉保健活動について	18
6. 広報について	21
7. 読書活動について	26
8. 区制20周年について	30
9. 健康について	32
10. 郵便局での証明発行サービスについて	35
11. 駅周辺のまちづくりについて	35

回答者の属性

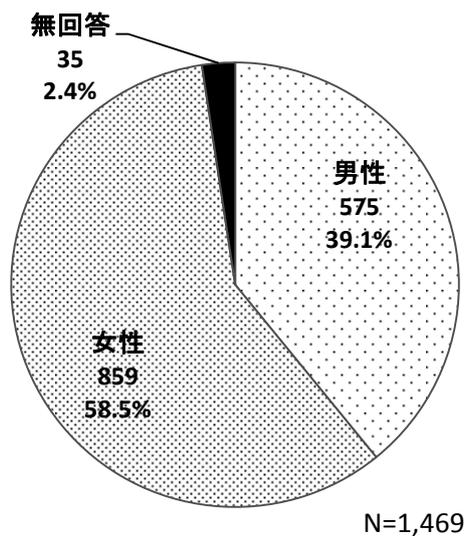
年齢（F1）

最も多いのは40代から50代前半で合わせて3割強。



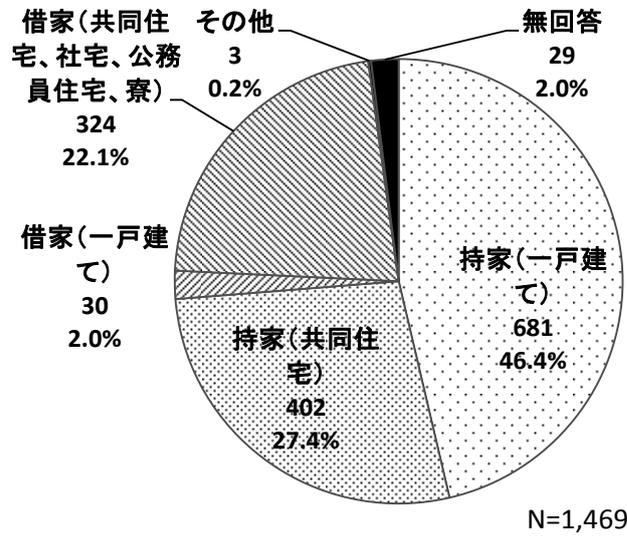
性別（F2）

女性が男性より19.4ポイント上回っている。



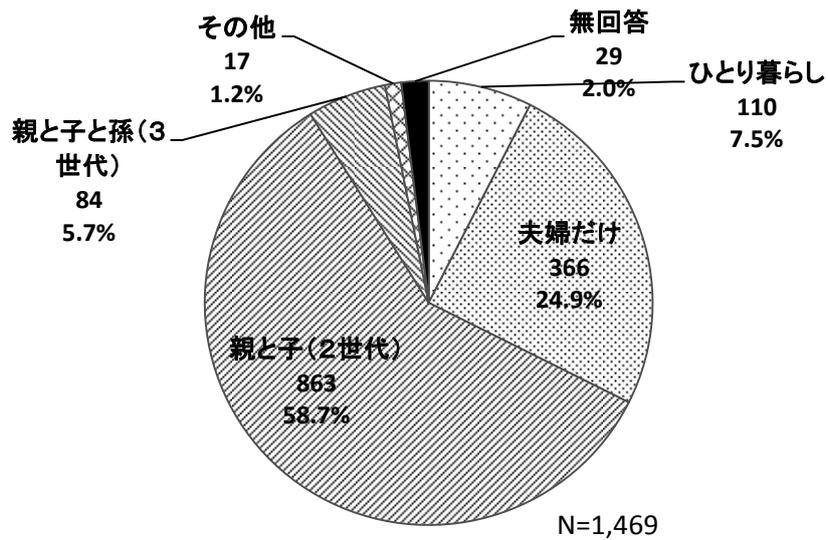
居住形態（F3）

「持家（一戸建て）」と「持家（共同住宅）」を合わせると、持家率は7割を超えている。



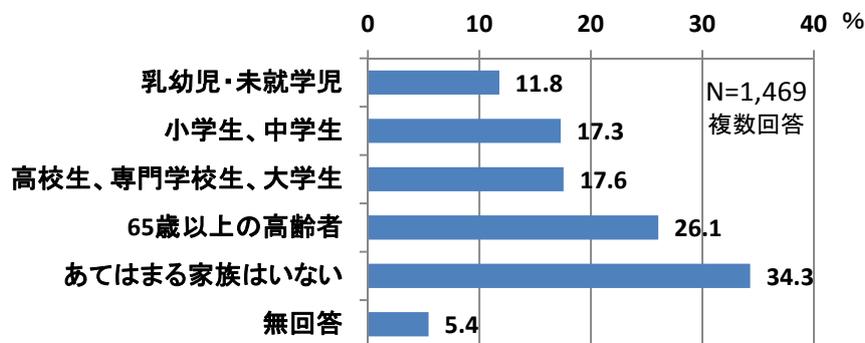
家族構成（F4）

「親と子（2世代）」が全体の6割弱、「夫婦だけ」が4分の1弱を占めている。



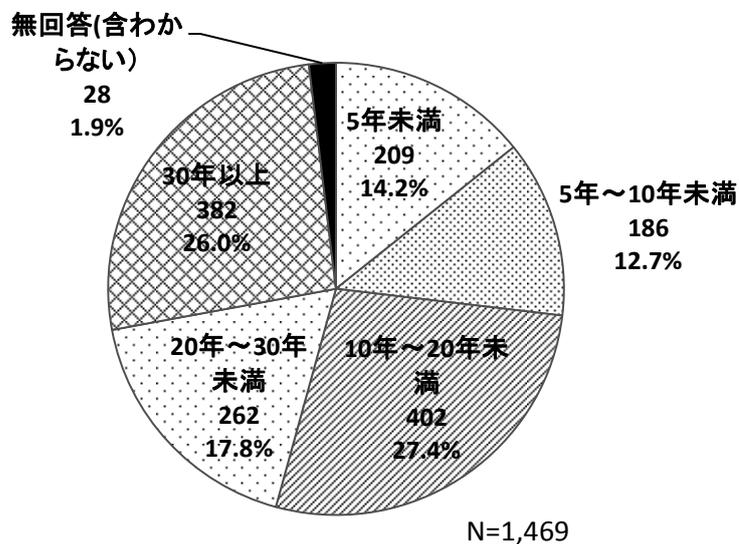
同居している家族（F5）

「あてはまる家族はいない」を除いて、最も多いのは「65歳以上の高齢者」で全体の4分の1である。



居住期間（F6）

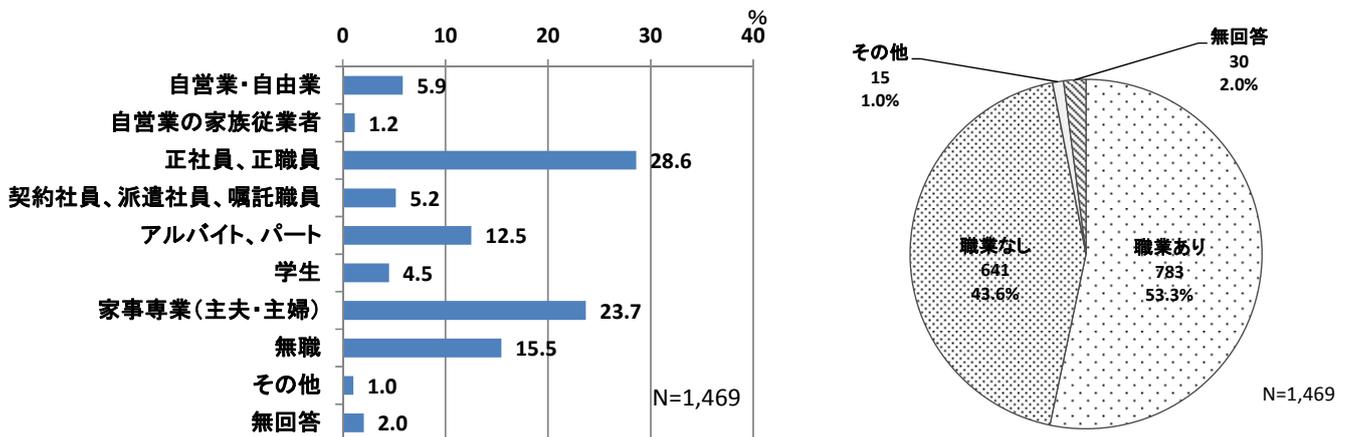
「10年～20年未満」が3割弱で最多、次いで「30年以上」、「20年～30年未満」、「5年未満」、「5年～10年未満」の順である。



職業（F7）

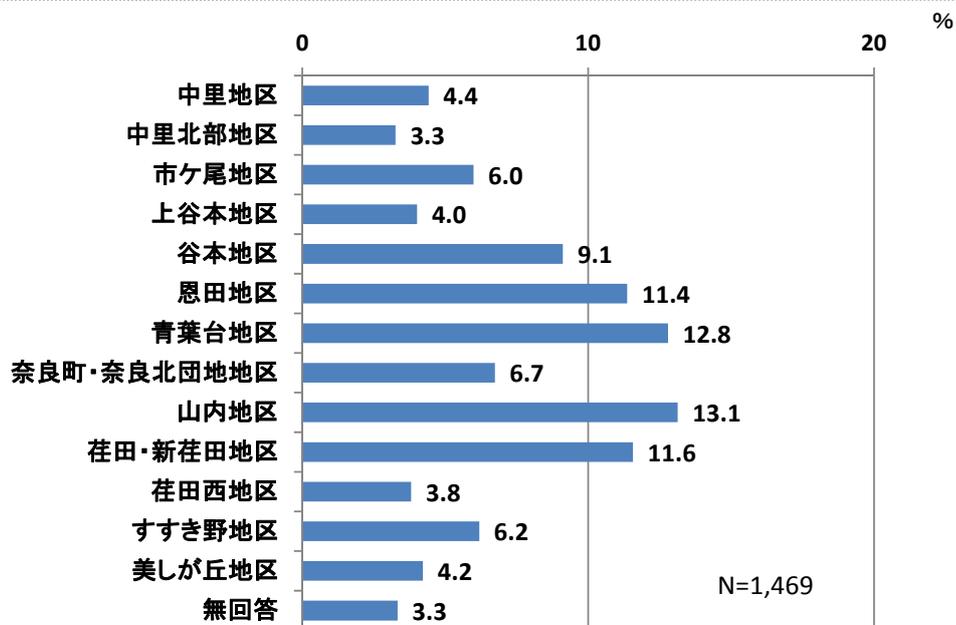
最も多いのは「正社員、正職員」で全体の3割弱を占める。次いで「家事専業（主夫・主婦）」、「無職」、「アルバイト、パート」と続く。

「職業あり」が「職業なし（学生・家事専業・無職）」を9.7ポイント上回っている。



居住地区（F8）

「山内地区」「青葉台地区」「荏田・新荏田地区」「恩田地区」が多くなっている。

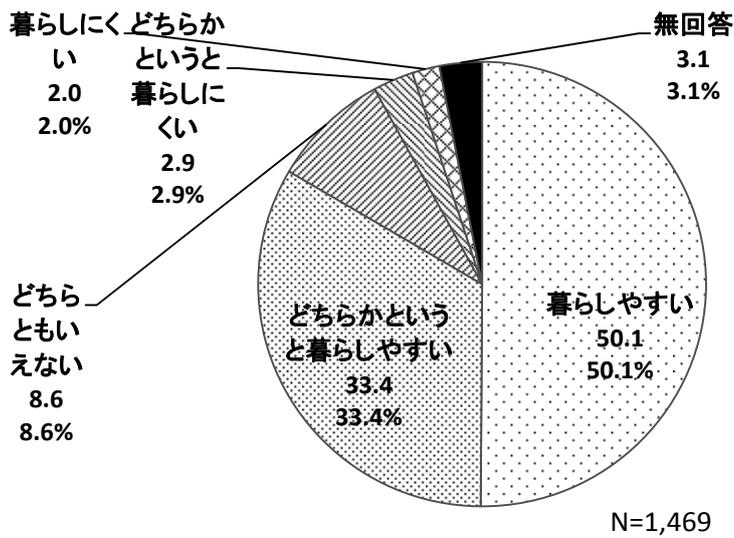


調査結果の概要

1. 住まいの周辺の生活環境について

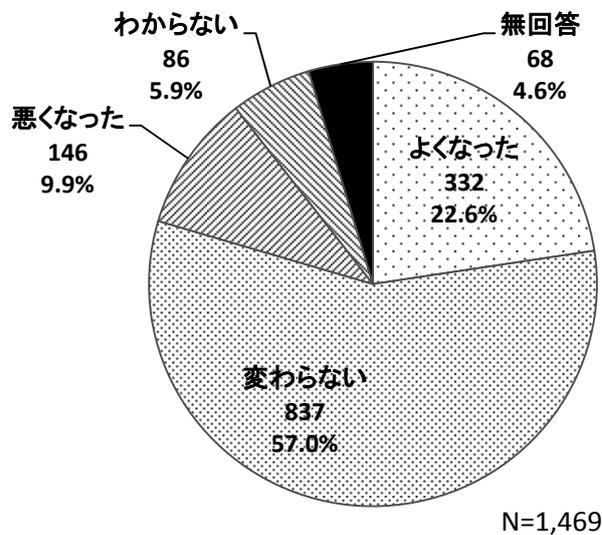
現在のお住まいの周辺の生活環境について（問1）

「暮らしやすい」が半数を占めており、「どちらかという暮らしやすい」を加えると8割以上が暮らしやすいと感じている。



5年前との比較について（問2）

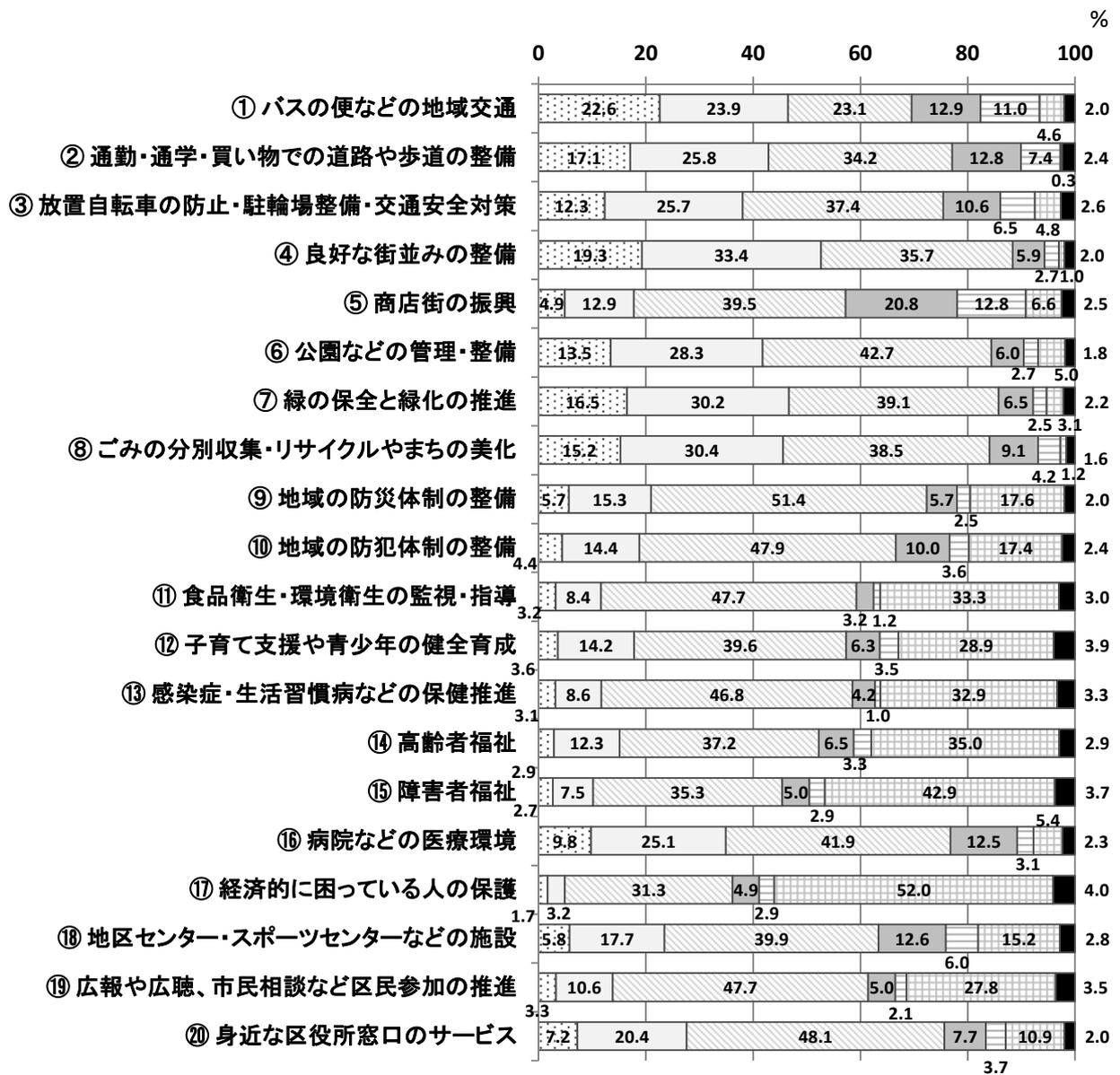
「変わらない」が6割弱を占めている。次いで「よくなった」が2割強である。



生活環境に関する満足度・5年前との比較（問3）

<満足度>

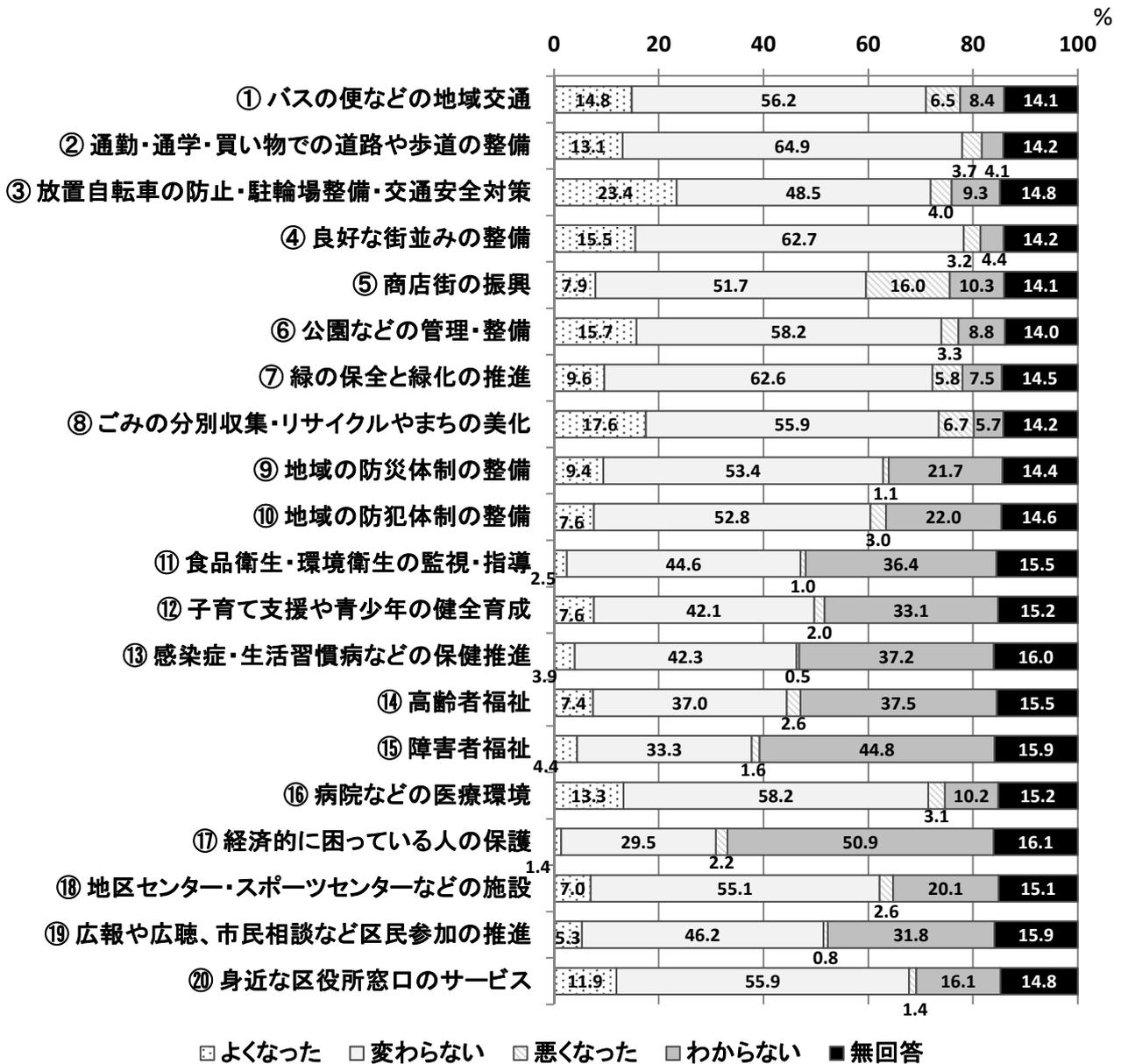
「満足」「やや満足」を合わせた数値の上位項目は、「良好な街並みの整備」「緑の保全と緑化の推進」「バスの便などの地域交通」「ごみの分別収集・リサイクルやまちの美化」「通勤・通学・買い物での道路や歩道の整備」「公園などの管理・整備」で、これら6項目は「満足」「やや満足」を合わせた数値が4割を超えている。



□満足 □やや満足 □ふつう □やや不満 □不満 □わからない ■無回答

< 以前との比較 >

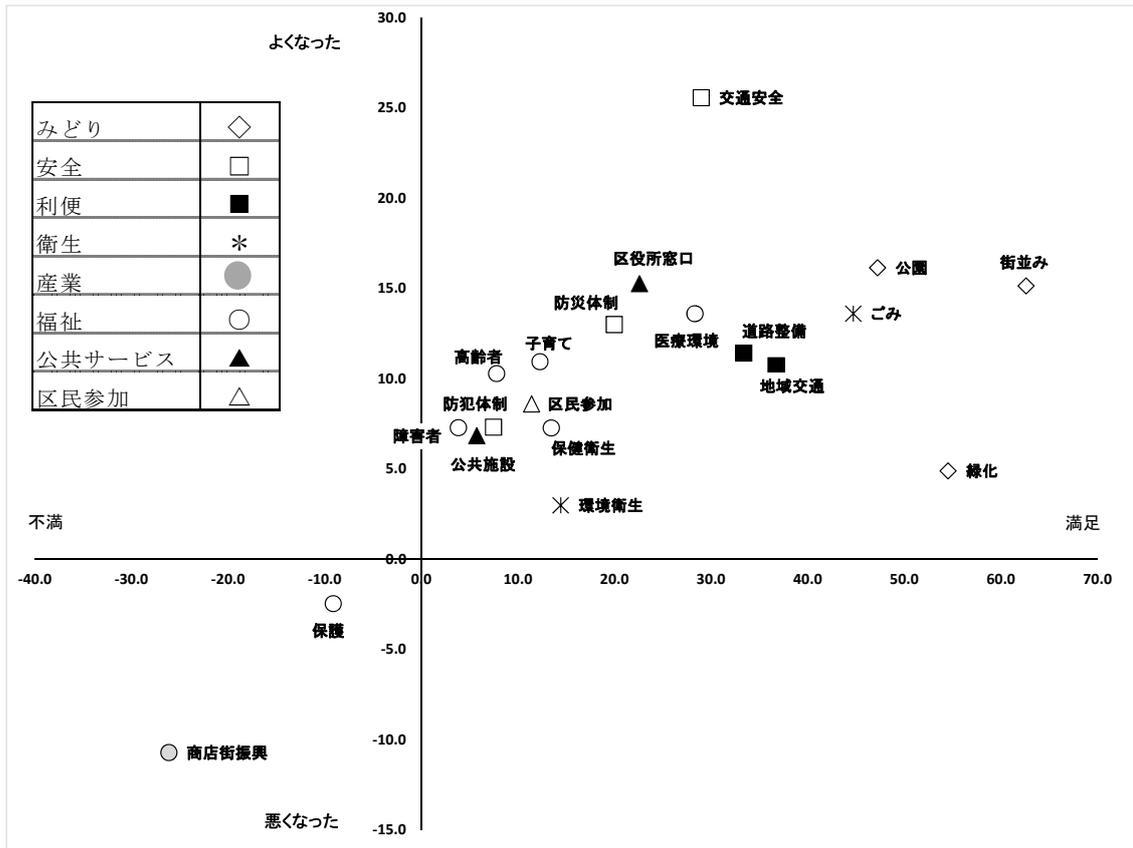
「よくなった」の数値が最も高いのは「放置自転車の防止・駐輪場整備・交通安全対策」で、以下「ごみの分別収集・リサイクルやまちの美化」「公園などの管理・整備」「良好な街並みの整備」「バスの便などの地域交通」が上位5項目である。



<『満足度』と『以前と比べた変化』の関係>

『満足度』『以前と比べた変化』について結果を点数化し、両者の関係をみると、『満足度』では、「商店街の振興」、「経済的に困っている人の保護」を除いて「満足」側にあり、『以前と比べた変化』では「商店街の振興」「経済的に困っている人の保護」を除いて「よくなった」側に位置している。

『満足度』と『以前と比べた変化』の関係



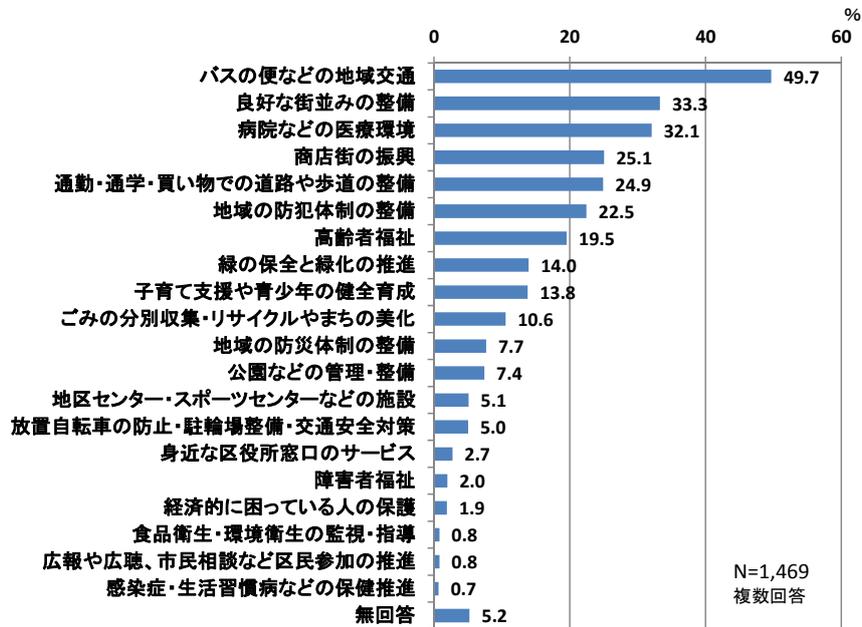
※満足度---「わからない」「無回答」を除いた構成比を用い、「満足」2点、「やや満足」1点、「ふつう」0点、「やや不満」-1点、「不満」-2点を付与して合計して算出

※以前と比べた変化---「わからない」「無回答」を除いた構成比を用い、「よくなった」1点、「かわらない」0点、「悪くなった」-1点を付与して合計して算出

設問項目	省略表記	分野
①バスの便などの地域交通	地域交通	利便
②通勤・通学・買い物での道路や歩道の整備	道路整備	利便
③放置自転車の防止・駐輪場整備・交通安全対策	交通安全	安全
④良好な街並みの整備	街並み	みどり
⑤商店街の振興	商店街振興	産業
⑥公園などの管理・整備	公園	みどり
⑦緑の保全と緑化の推進	緑化	みどり
⑧ごみの分別収集・リサイクルやまちの美化	ごみ	衛生
⑨地域の防災体制の整備	防災体制	安全
⑩地域の防犯体制の整備	防犯体制	安全
⑪食品衛生・環境衛生の監視・指導	環境衛生	衛生
⑫子育て支援や青少年の健全育成	子育て	福祉
⑬感染症・生活習慣病などの保健推進	保健衛生	福祉
⑭高齢者福祉	高齢者	福祉
⑮障害者福祉	障害者	福祉
⑯病院などの医療環境	医療環境	福祉
⑰経済的に困っている人の保護	保護	福祉
⑱地区センター・スポーツセンターなどの施設	公共施設	公共サービス
⑲広報や広聴、市民相談など区民参加の推進	区民参加	区民参加
⑳身近な区役所窓口のサービス	区役所窓口	公共サービス

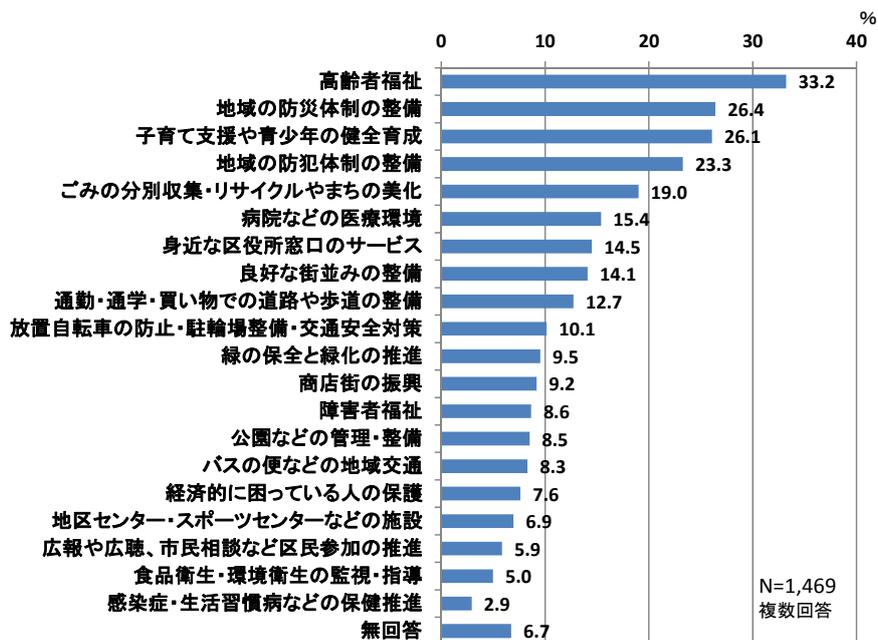
特に重視する生活環境（問４）

「バスの便などの地域交通」が最も多く、半数近くの人が挙げている。次いで「良好な街並みの整備」「病院などの医療環境」も３割を超えている。「商店街の振興」「通勤・通学・買い物での道路や歩道の整備」「地域の防犯体制の整備」が２割台である。



区役所が取り組む課題として特に重要だと思うこと（問５）

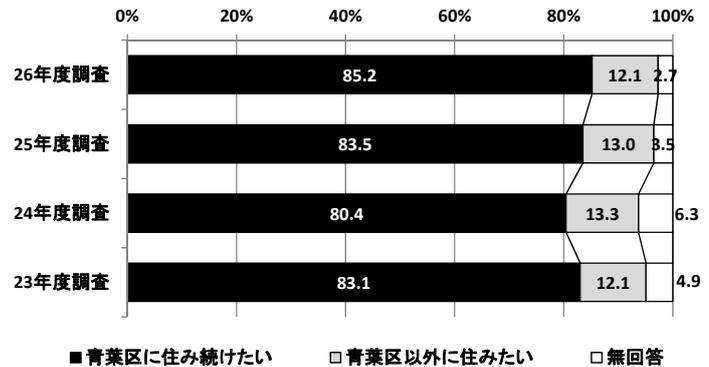
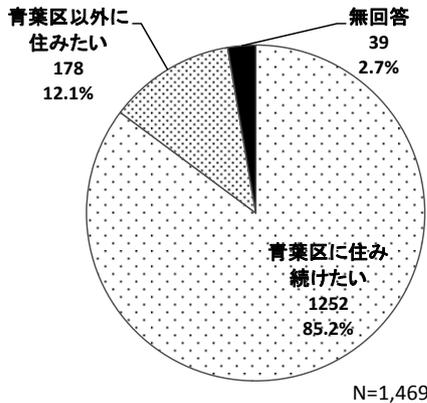
「高齢者福祉」が３割強で最も多く、次いで「地域の防災体制の整備」「子育て支援や青少年の健全育成」「地域の防犯体制の整備」が２割台である。



2. 定住意識について

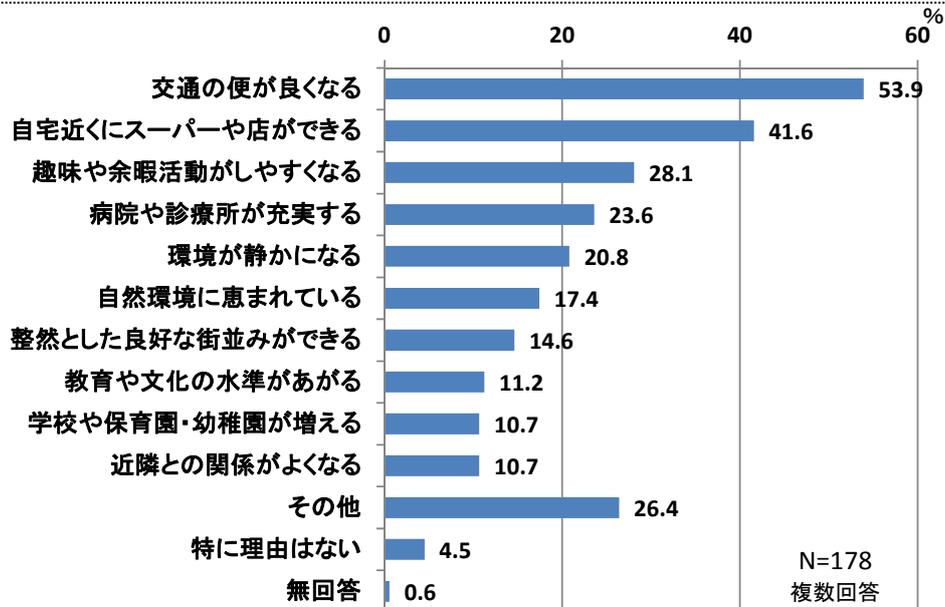
定住意識（問6）

「青葉区に住み続けたい」が85.2%。平成23年度から一貫して「青葉区に住み続けたい」が8割を超えており、今年度調査は最多。



「住み続けたくない」気持ちが「住み続けたい」気持ちに変わるために必要なこと（問6-1）

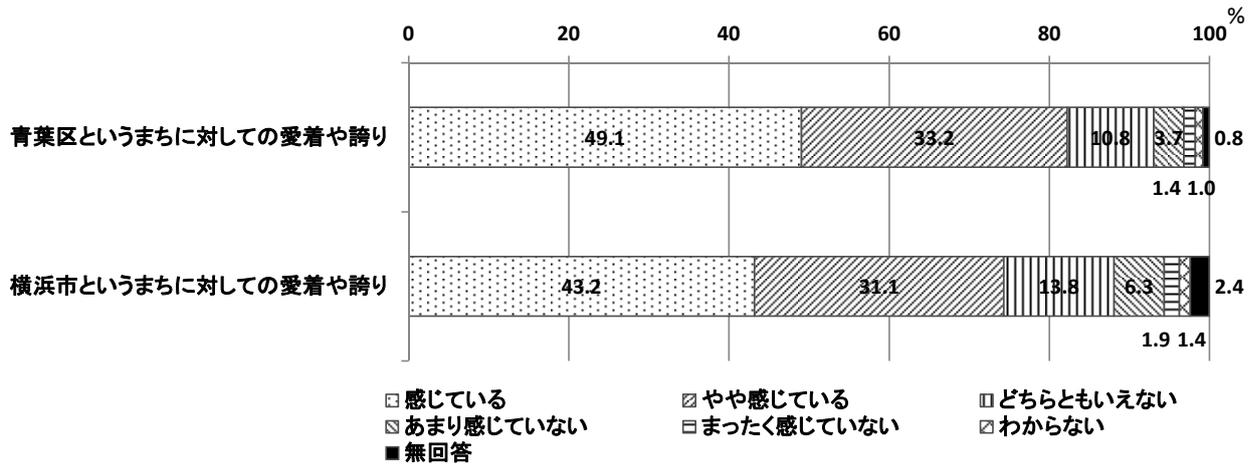
「交通の便が良くなる」が5割強。次いで「自宅近くにスーパーや店ができる」「趣味や余暇活動がしやすくなる」「病院や診療所が充実する」「環境が静かになる」



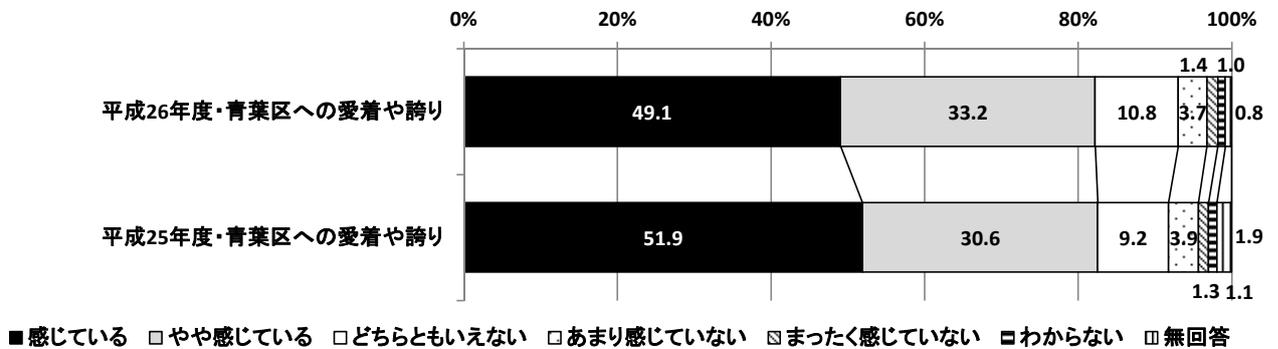
3. 青葉区、横浜市への愛着について

青葉区や横浜市への愛着や誇り（問7）

青葉区への愛着や誇りを「感じている」人が全体の約半数を占める。「やや感じている」を加えると8割強。横浜市に対しては「感じている」が4割強。平成25年度調査結果と比較すると、「感じている」と「やや感じている」の割合はほぼ横ばいである。



<参考 青葉区への愛着や誇り：平成25年度調査結果との比較>

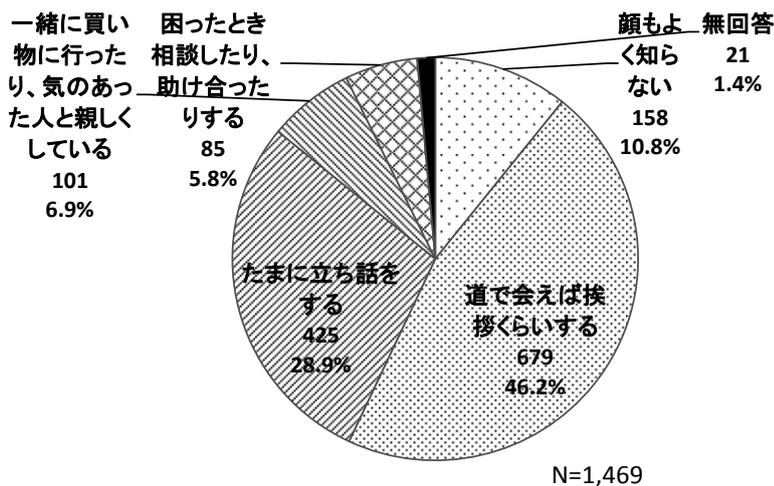


4. 地域と生活について

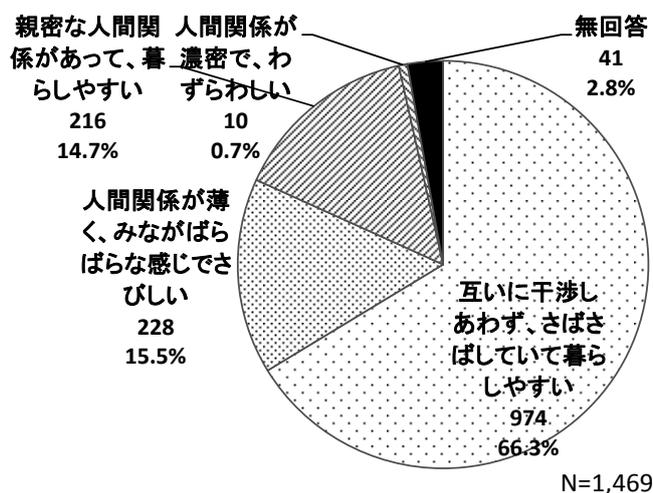
隣近所とのつき合い方（問8、問9）

隣近所とのつき合い方については「道で会えば挨拶くらいする」が5割弱、「たまに立ち話をする」は3割弱。隣近所とのつき合いをどのように感じているかについては「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が6割超。

【隣近所とのつき合い方】

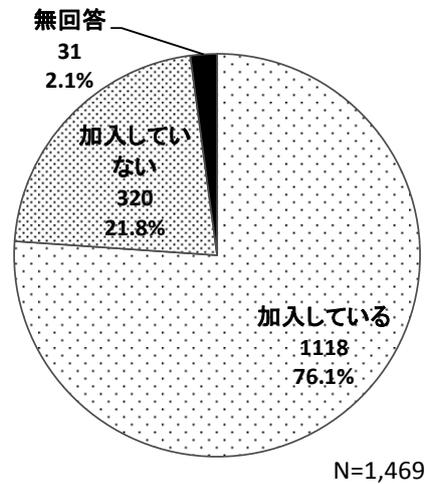


【どのように感じているか】

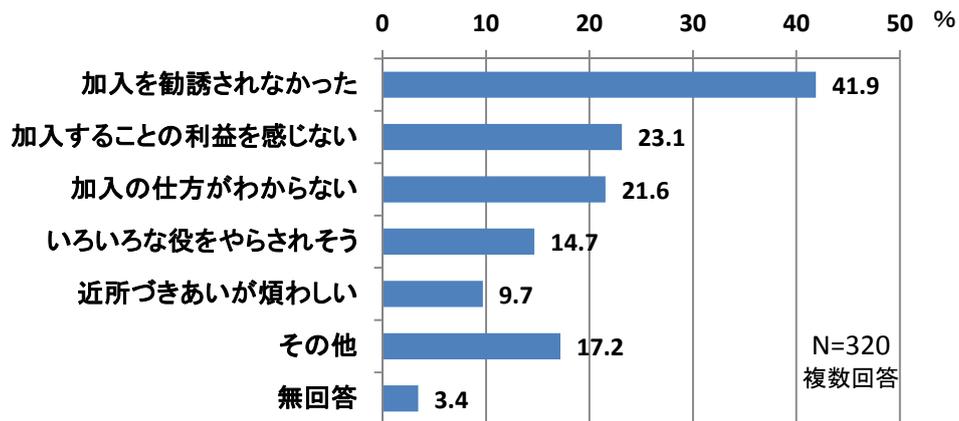


自治会・町内会への加入について（問 10）

自治会・町内会に加入している人は全体の4分の3。加入していない理由は「加入を勧誘されなかった」が約4割で最多。



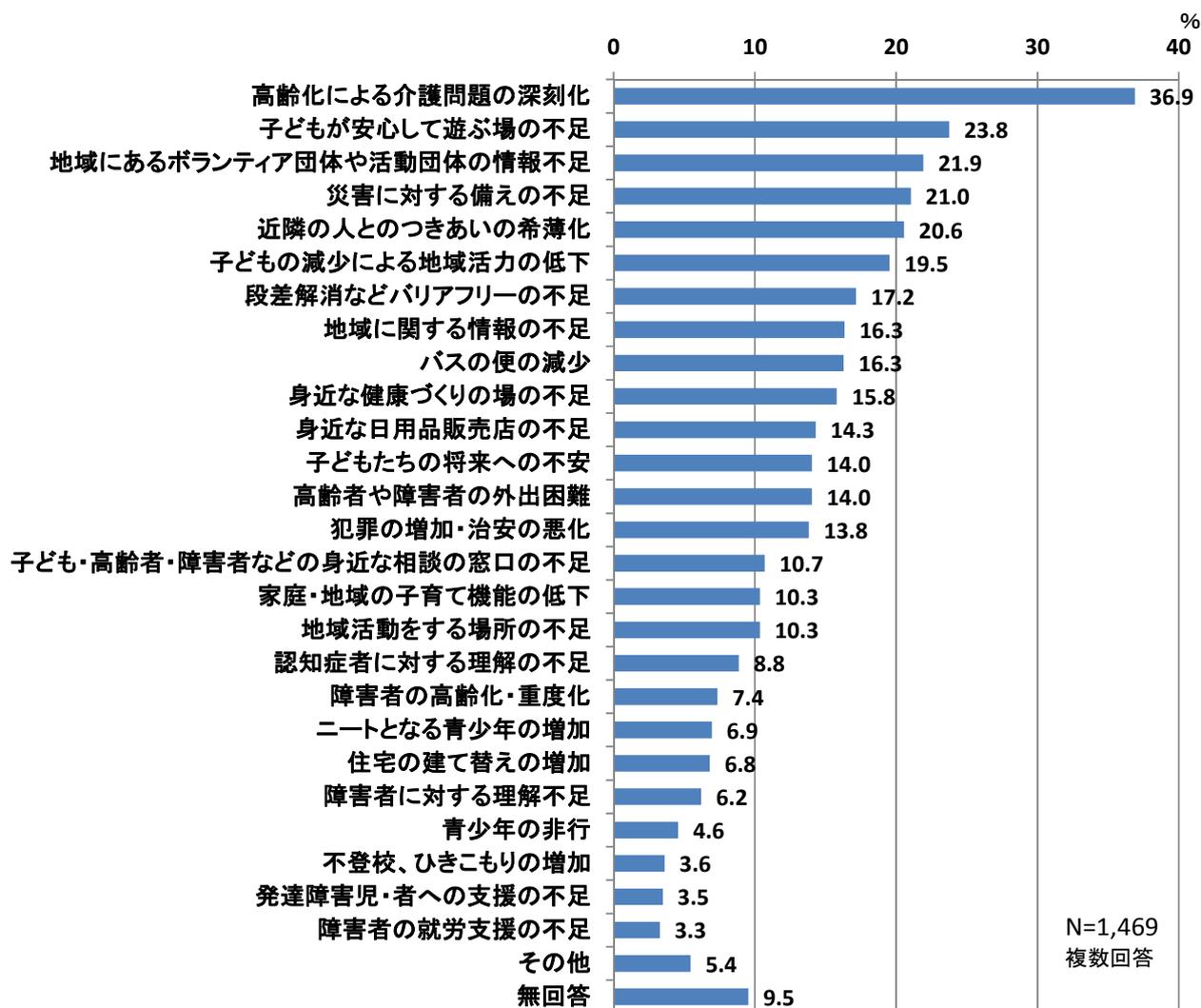
<自治会・町内会に加入していない理由>



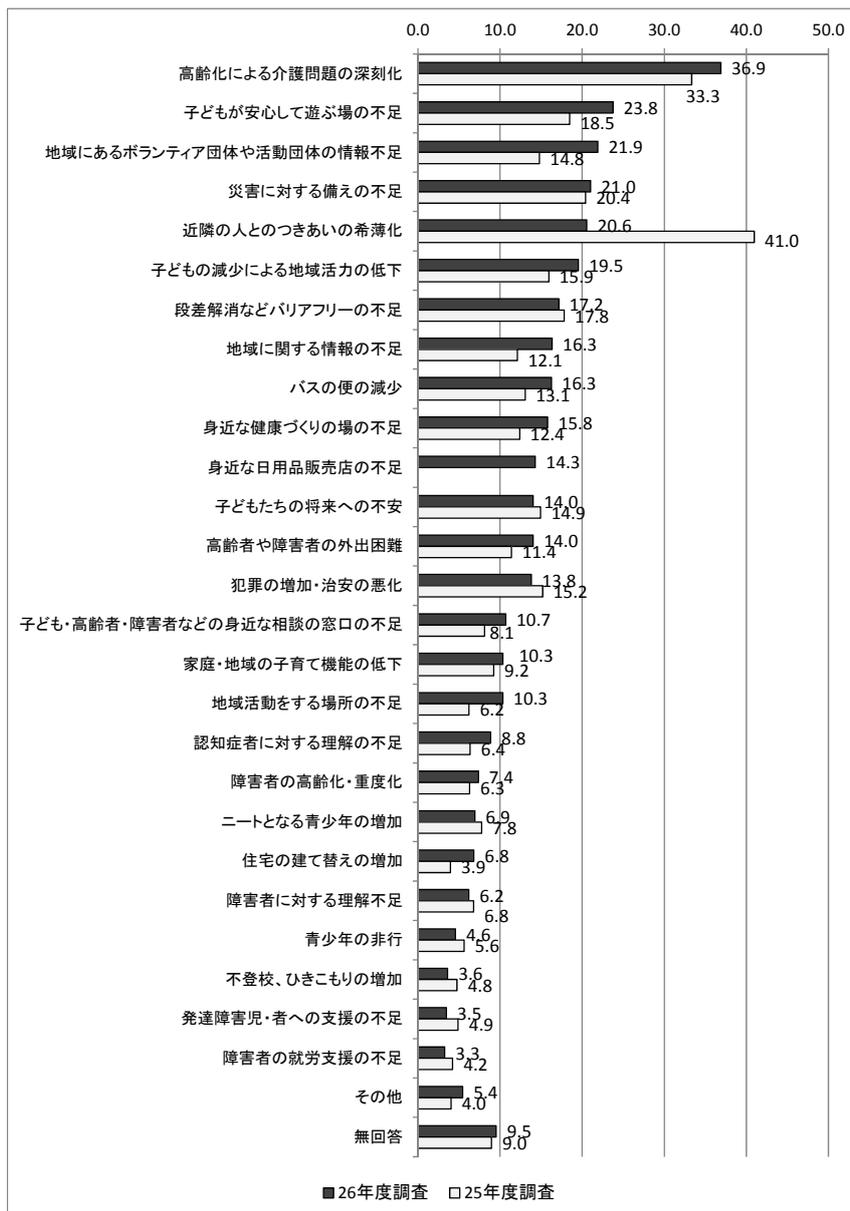
住んでいる地域の課題・問題（問 11）

「高齢化による介護問題の深刻化」が4割弱で最多。「子どもが安心して遊ぶ場の不足」、「地域にあるボランティア団体や活動団体の情報不足」、「災害に対する備えの不足」、「近隣の人とのつきあいの希薄化」が2割を超えている。

平成25年度調査と比較すると、「近隣の人とのつきあいの希薄化」が20.4ポイント減少、「子どもが安心して遊ぶ場の不足」「地域にあるボランティア団体や活動団体の情報不足」「地域に関する情報の不足」が順位を上げている。



＜参考 平成 25 年度調査結果との比較＞



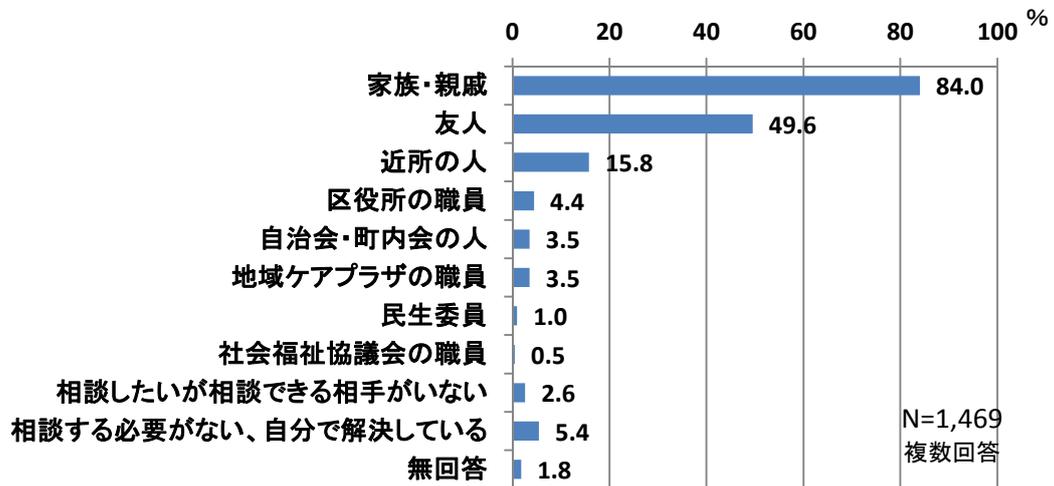
＜参考 平成 25 年度調査結果との比較 上位 16 位＞

25年度		26年度	
近隣の人とのつきあいの希薄化	41.0	高齢化による介護問題の深刻化	36.9
高齢化による介護問題の深刻化	33.3	子どもが安心して遊ぶ場の不足	23.8
災害に対する備えの不足	20.4	地域にあるボランティア団体や活動団体の情報不足	21.9
子どもが安心して遊ぶ場の不足	18.5	災害に対する備えの不足	21.0
段差解消などバリアフリーの不足	17.8	近隣の人とのつきあいの希薄化	20.6
子どもの減少による地域活力の低下	15.9	子どもの減少による地域活力の低下	19.5
犯罪の増加・治安の悪化	15.2	段差解消などバリアフリーの不足	17.2
子どもたちの将来への不安	14.9	地域に関する情報の不足	16.3
地域にあるボランティア団体や活動団体の情報不足	14.8	バスの便の減少	16.3
バスの便の減少	13.1	身近な健康づくりの場の不足	15.8
身近な健康づくりの場の不足	12.4	身近な日用品販売店の不足	14.3
地域に関する情報の不足	12.1	子どもたちの将来への不安	14.0
高齢者や障害者の外出困難	11.4	高齢者や障害者の外出困難	14.0
家庭・地域の子育て機能の低下	9.2	犯罪の増加・治安の悪化	13.8
子ども・高齢者・障害者などの相談窓口の不足	8.1	子ども・高齢者・障害者などの相談窓口の不足	10.7
ニートとなる青少年の増加	7.8	家庭・地域の子育て機能の低下	10.3

注) 薄い網掛けは 2 つ以上順位を上げた項目、濃い網掛けは 2 つ以上順位を下げた項目

日常生活で困ったときの相談相手（問 12）

「家族・親戚」が 84.0% で突出して多く 8 割超。次いで「友人」が約半数である。

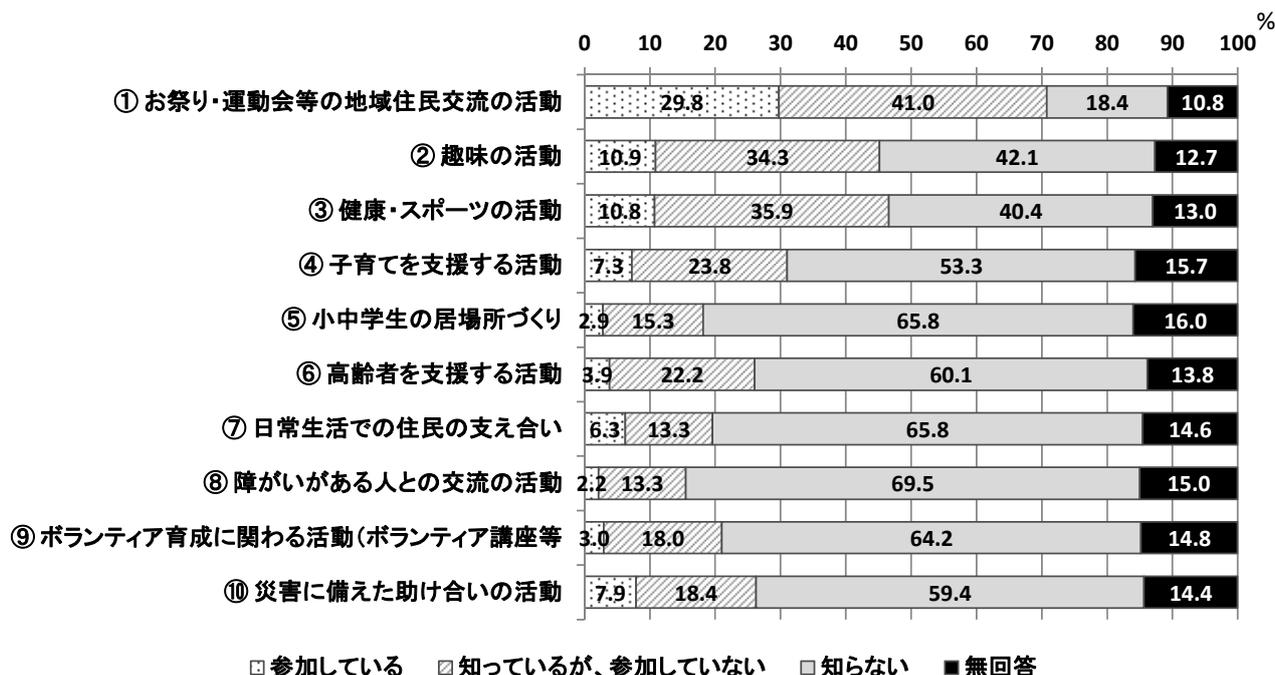


5. 地域の福祉保健活動について

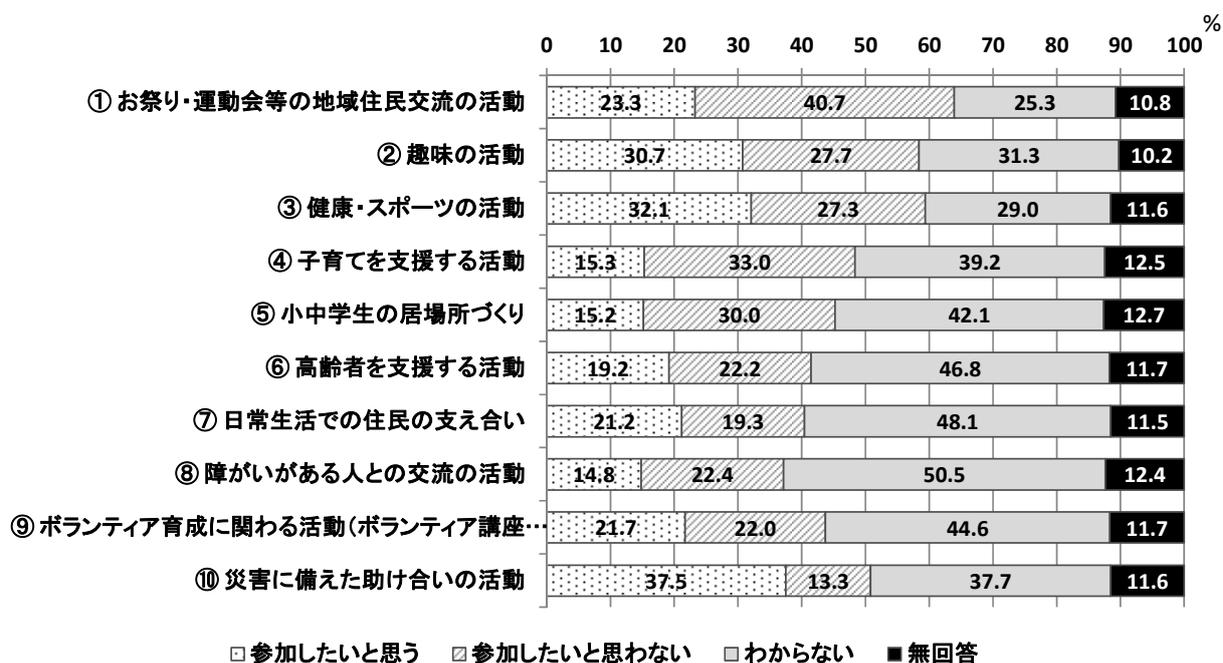
地域活動への参加の有無（問13）

参加率が高いのは「お祭り・運動会等の地域住民交流の活動」「趣味の活動」「健康・スポーツの活動」。何らかの活動に参加しているのは全体の4割。参加意向が高いのは「災害に備えた助け合いの活動」「健康・スポーツの活動」「趣味の活動」が3割超。

【参加実績】



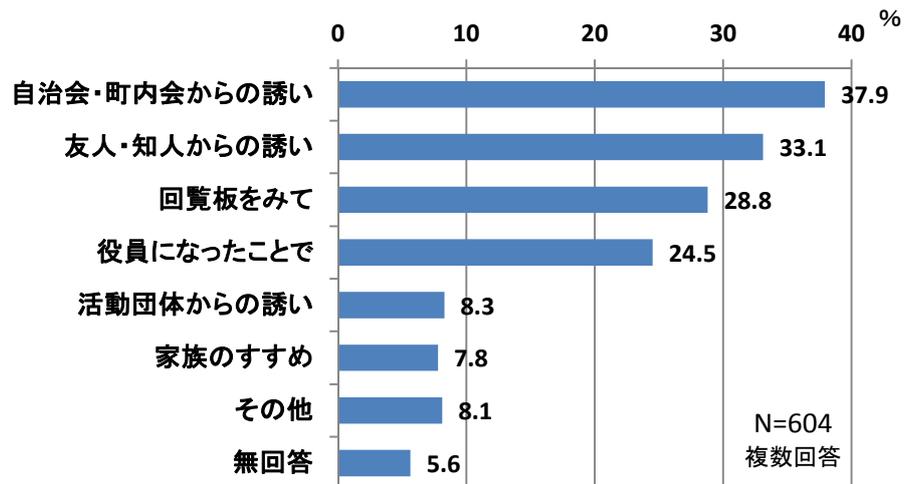
【参加希望】



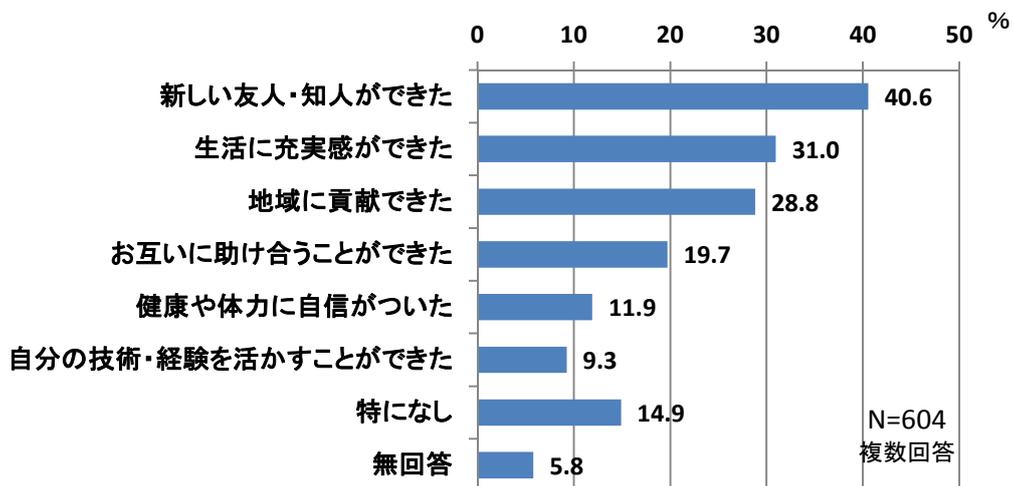
参加したきっかけは「自治会・町内会からの誘い」「友人・知人からの誘い」が3割超。

参加して良かったと思うことは「新しい友人・知人ができた」が約4割。次いで「生活に充実感ができた」「地域に貢献できた」「お互いに助け合うことができた」が続く。

【活動に参加したきっかけ】



【活動に参加して良かったと思うこと】

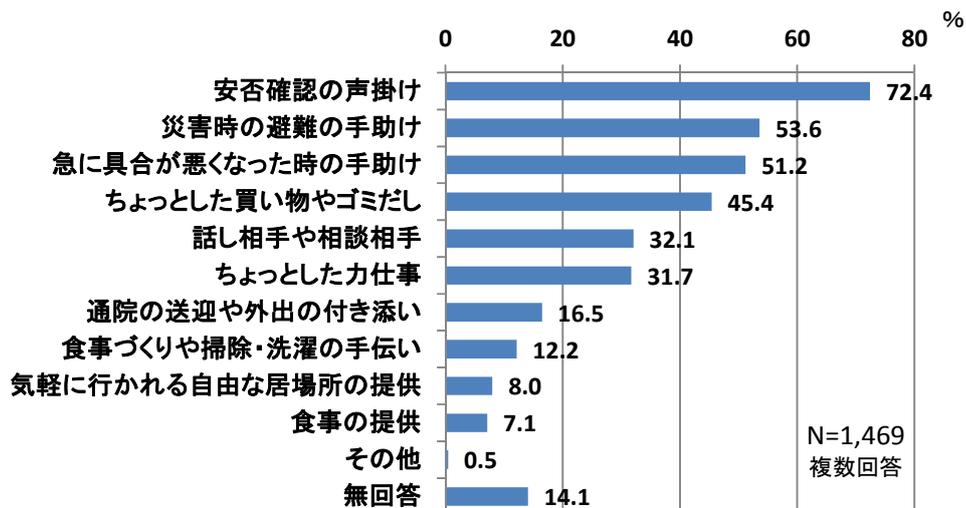


地域で手助けができること、手助けしてもらいたいこと（問 14）

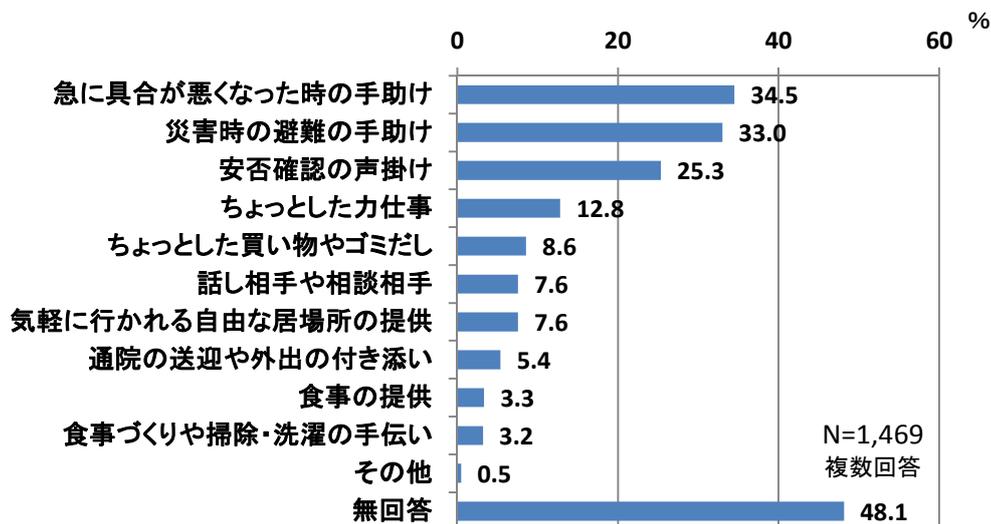
手助けできることは「安否確認の声掛け」で7割超。次いで「災害時の避難の手助け」「急に具合が悪くなった時の手助け」が半数超。

手助けしてほしいことについては、「無回答」が最多、次いで「急に具合が悪くなった時の手助け」「災害時の避難の手助け」が3割超。

【地域で手助けができること】

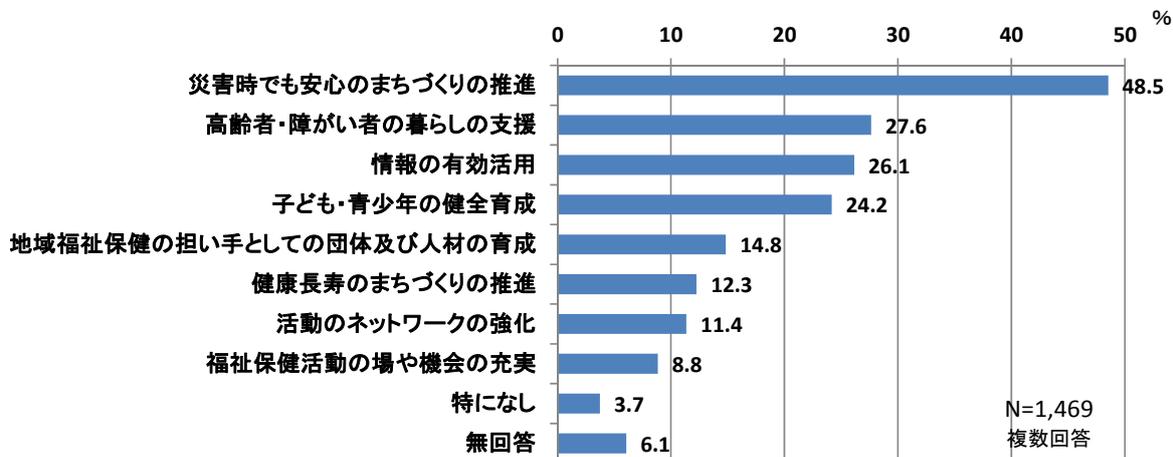


【手助けしてもらいたいこと】



青葉区で今後もさらに必要だと感じる取組（問 15）

「災害時でも安心のまちづくりの推進」が約半数。次いで「高齢者・障がい者の暮らしの支援」「情報の有効活用」「子ども・青少年の健全育成」が2割超。



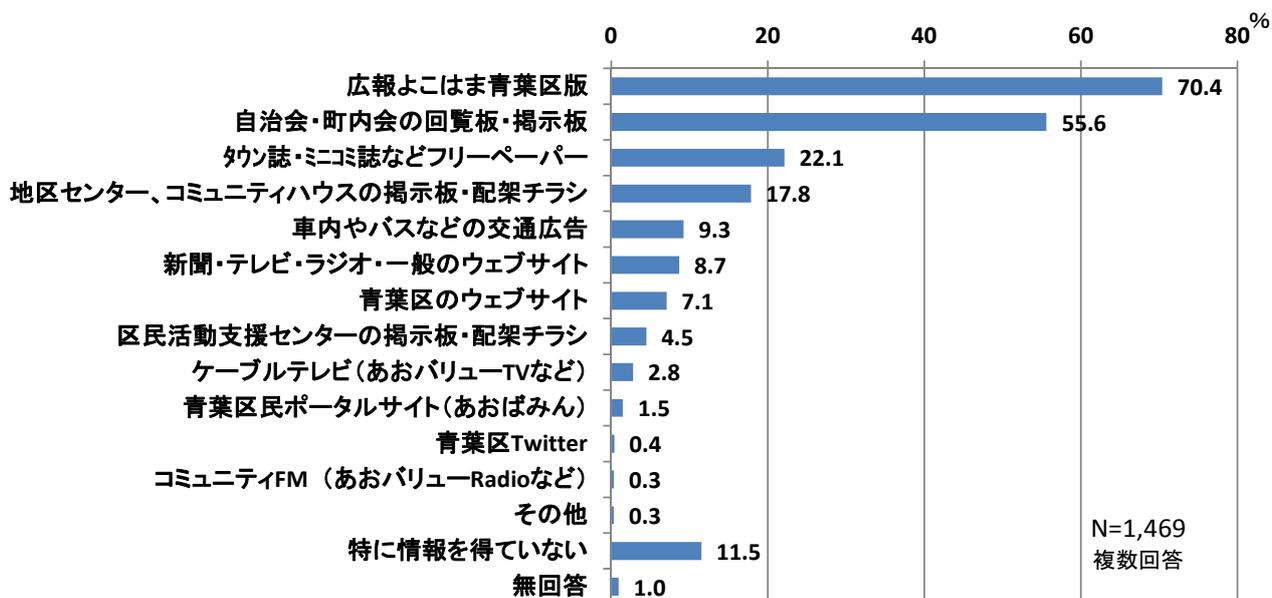
6. 広報について

青葉区の情報の入手手段（問 16）

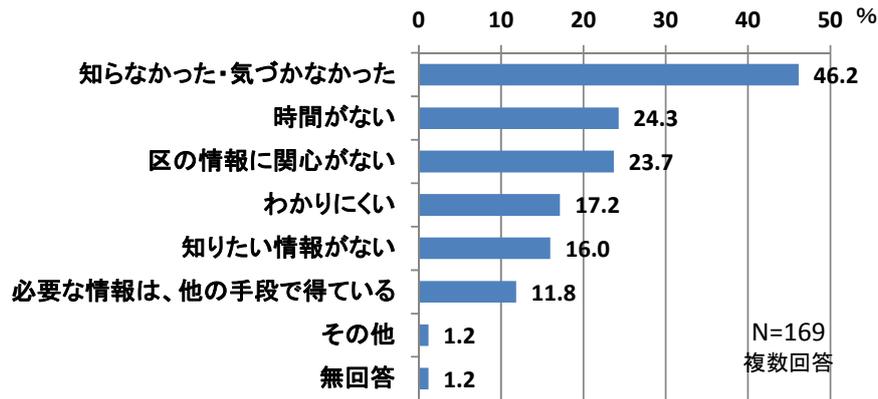
「広報よこはま青葉区版」が7割。次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」「タウン誌・ミニコミ誌などフリーペーパー」「地区センター、コミュニティハウスの掲示板・配架チラシ」と続いている。

情報を得ていない理由は「知らなかった・気づかなかった」が約半数。

【情報の入手手段】



【情報を得ていない理由】

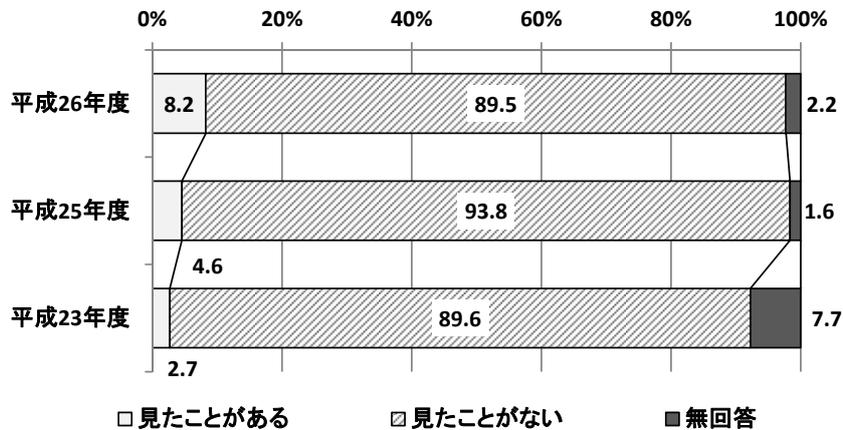


青葉区広報テレビ番組について（問 17）

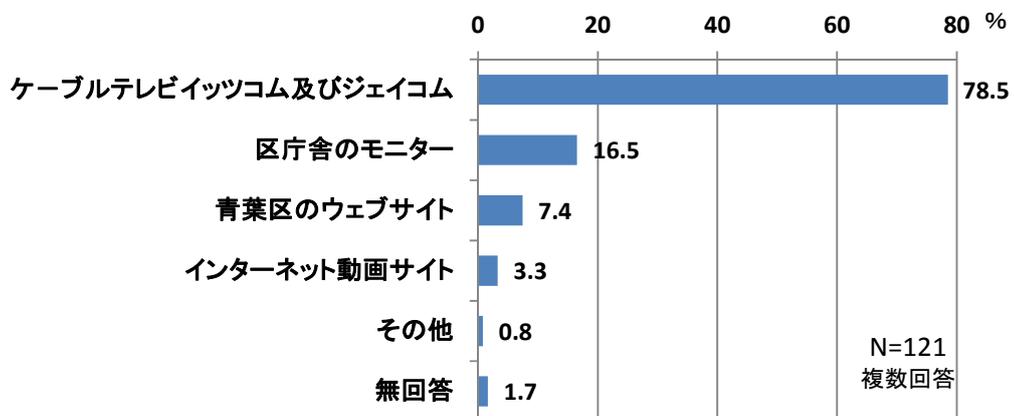
「見たことがない」が9割弱。平成23年度、平成25年度調査と比較すると、「見たことがある」の割合は増加傾向である。

視聴手段については、「ケーブルテレビ・ITツコム及びジェイコム」が8割弱。見ていない理由は「知らなかった・気づかなかった」が8割超。

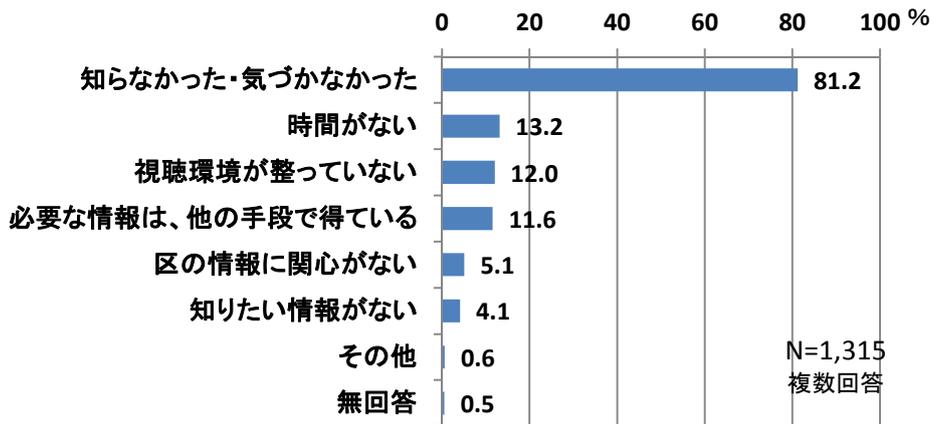
【視聴の有無】



【視聴手段】



【見ていない理由】

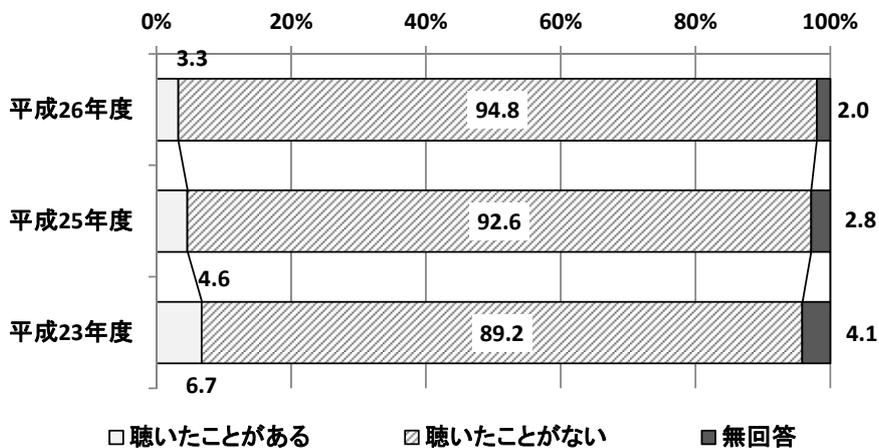


青葉区広報ラジオ番組について（問 18）

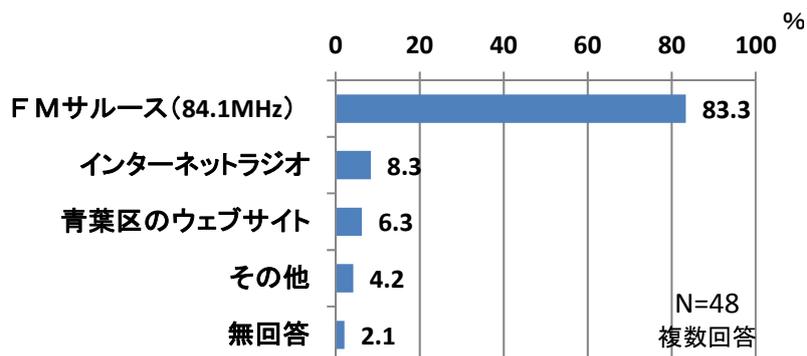
「聴いたことがない」が94.8%と9割以上を占め、圧倒的多数。平成23年度、平成25年度調査と比較すると、「聴いたことがある」の割合は微減傾向である。

聴取手段については、「FMサルース」が8割強。聴いていない理由は「知らなかった・気づかなかった」が8割強。

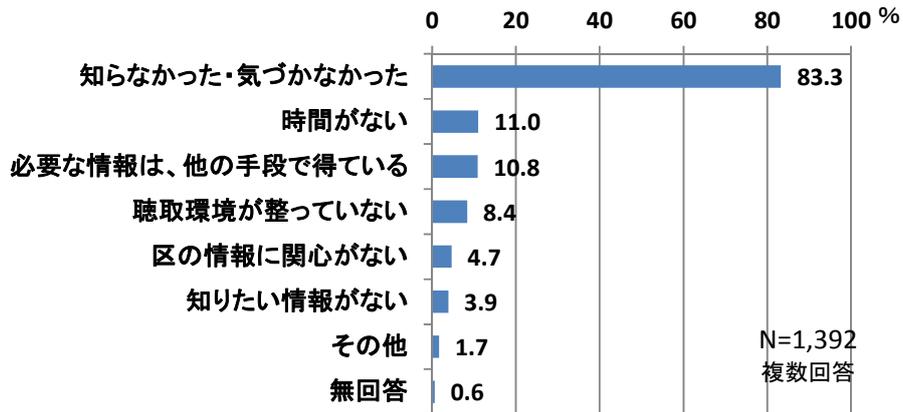
【聴取の有無】



【聴取手段】

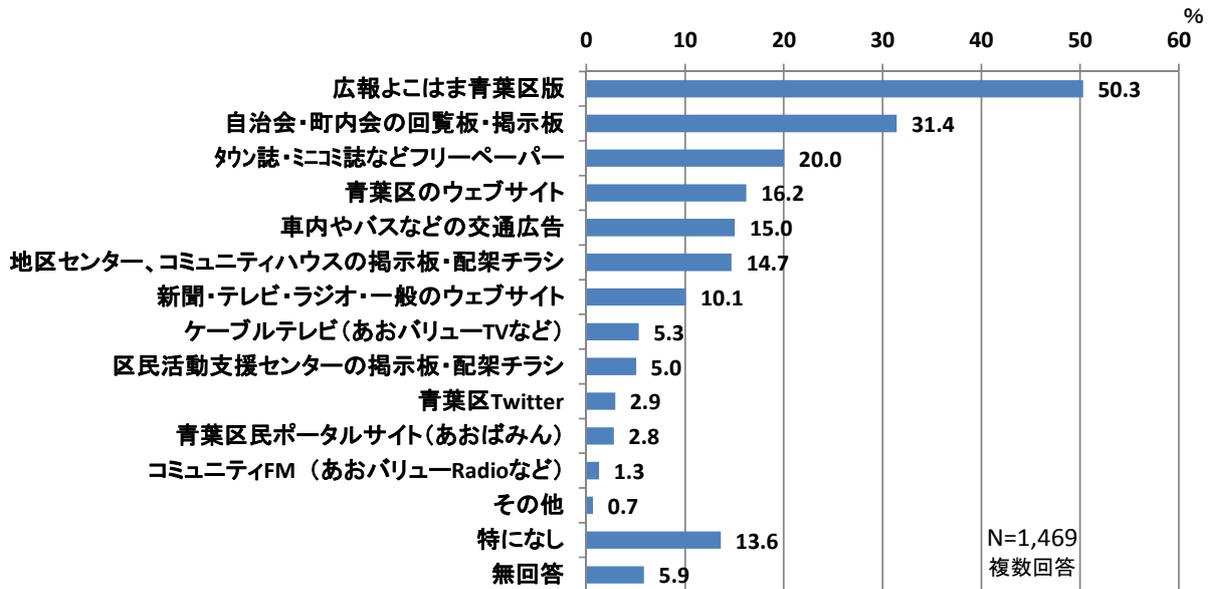


【聴いたことがない理由】



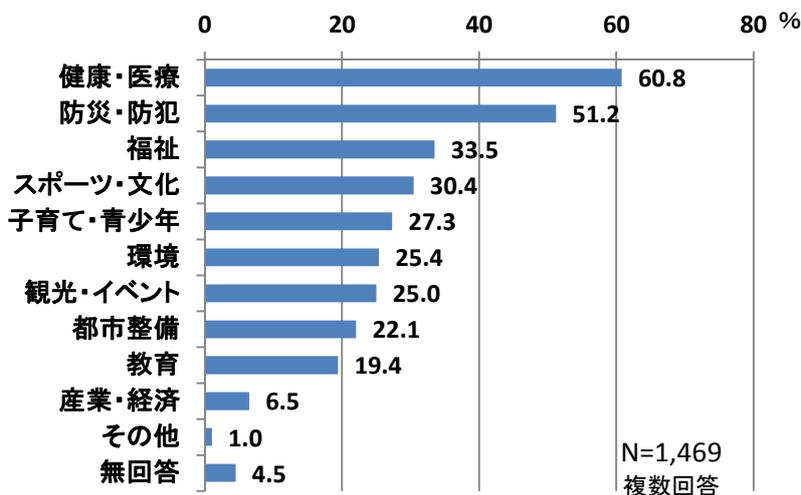
今後、力を入れてほしい広報媒体（問 19）

「広報よこはま青葉区版」が約半数。次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」「タウン誌・ミニコミ誌などフリーペーパー」。

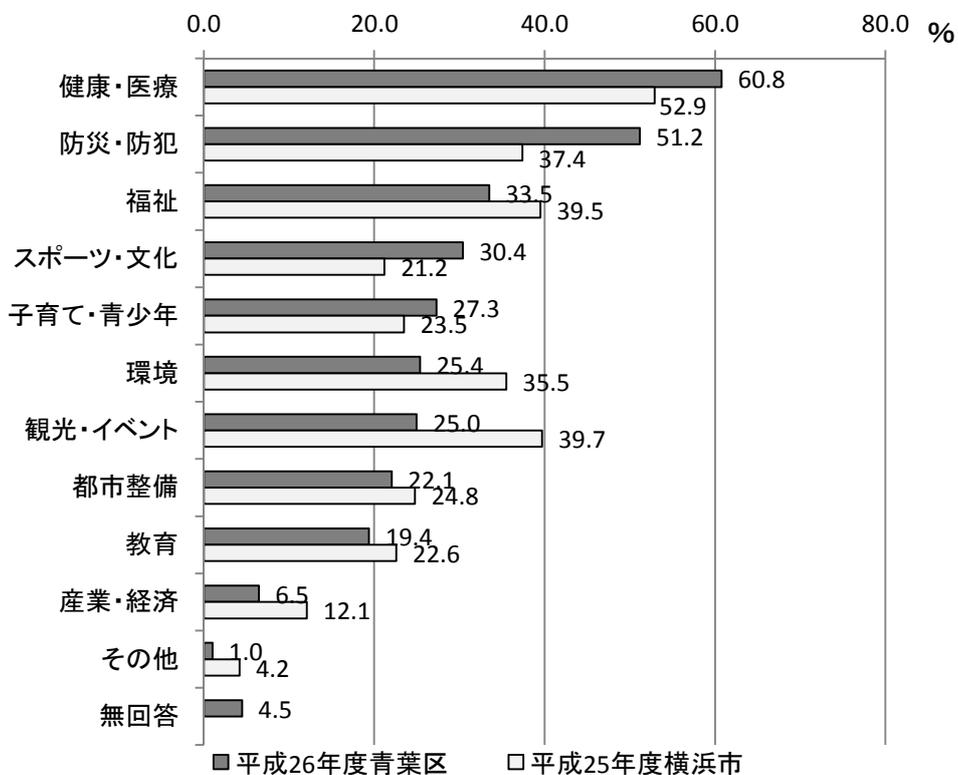


青葉区で関心のあるテーマ、広報を充実してほしいテーマ（問 20）

「健康・医療」が約6割。次いで「防災・防犯」「福祉」「スポーツ・文化」が続く。横浜市調査との比較では、「健康・医療」「防災・防犯」「スポーツ・文化」「子育て・青少年」の項目で、区の割合が高くなっている。



<参考 平成25年度横浜市の広報に関するアンケート調査結果との比較>

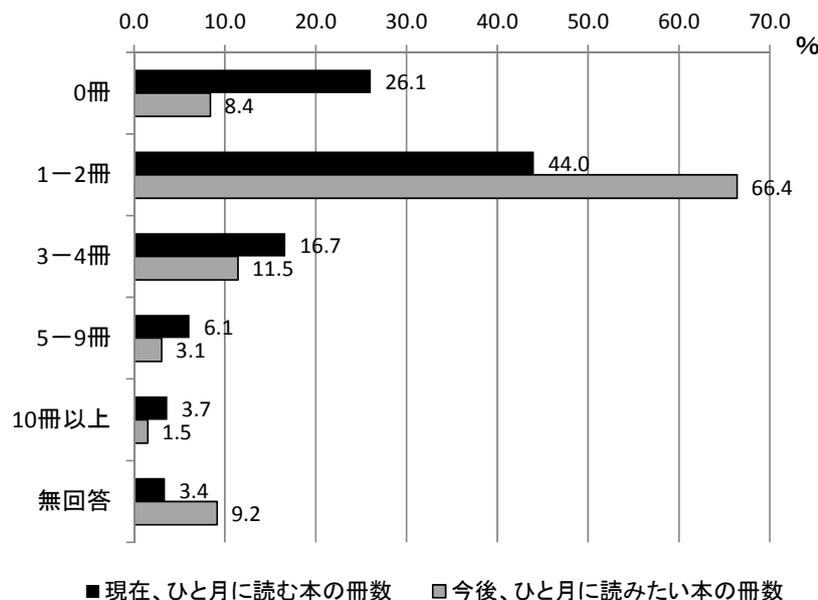


7. 読書活動について

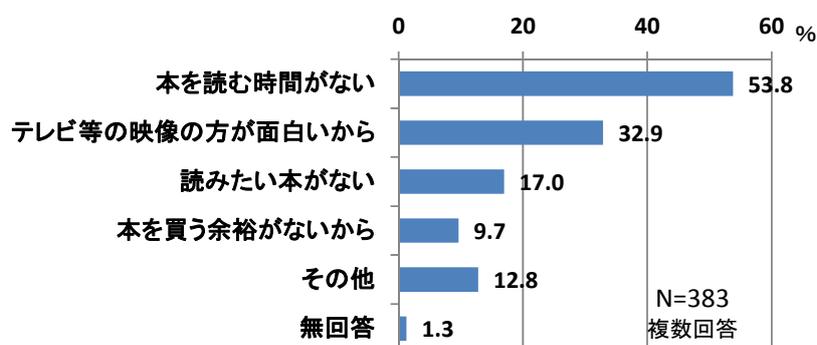
読書の状況（問 21）

現在ひと月に読む本の冊数は「1－2冊」が最も多く全体の4割強。今後、ひと月に読みたい本の冊数は「1－2冊」が最も多く全体の7割弱。本を読まない理由は、「本を読む時間がない」が5割強、「テレビ等の映像の方が面白いから」が3割強。

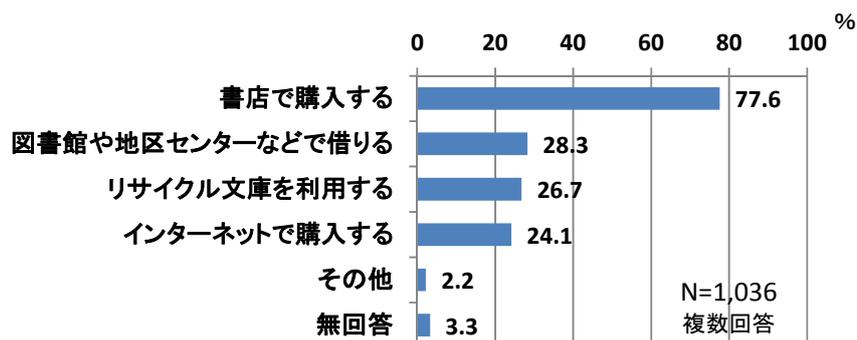
【読む本の冊数】



【本を読まない理由】



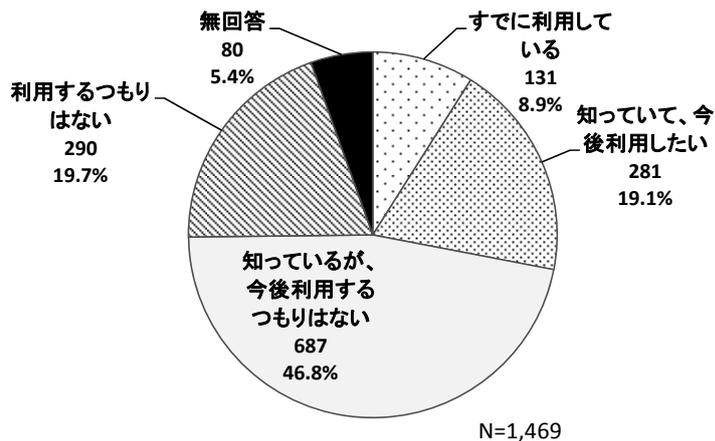
【本の入手方法】



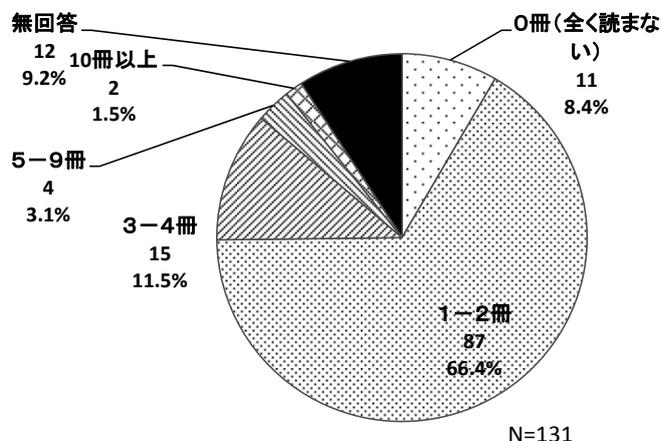
電子書籍の利用状況（問 22）

「知っているが、今後利用するつもりはない」が 46.8% で半数弱を占めている。既に利用している人は 1 割弱。今後利用したい人は約 2 割。現在利用している人は月に「1 - 2 冊」読む人が最多。「小説・文芸」「実用書」「漫画」「雑誌」を読む人が多い。

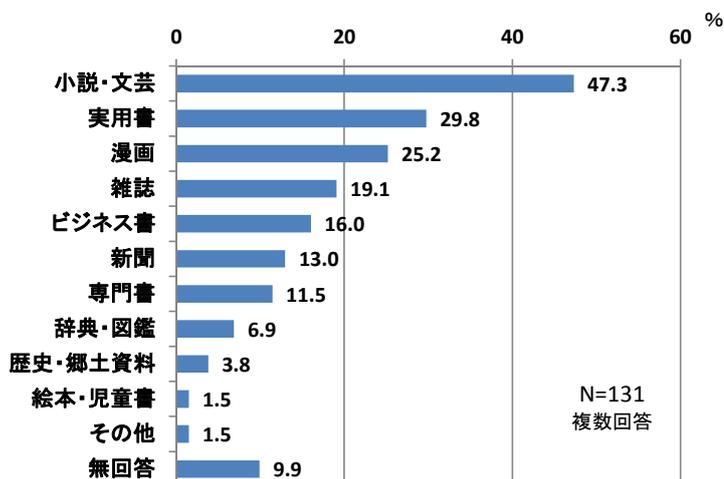
【電子書籍の利用状況】



【電子書籍の利用冊数】

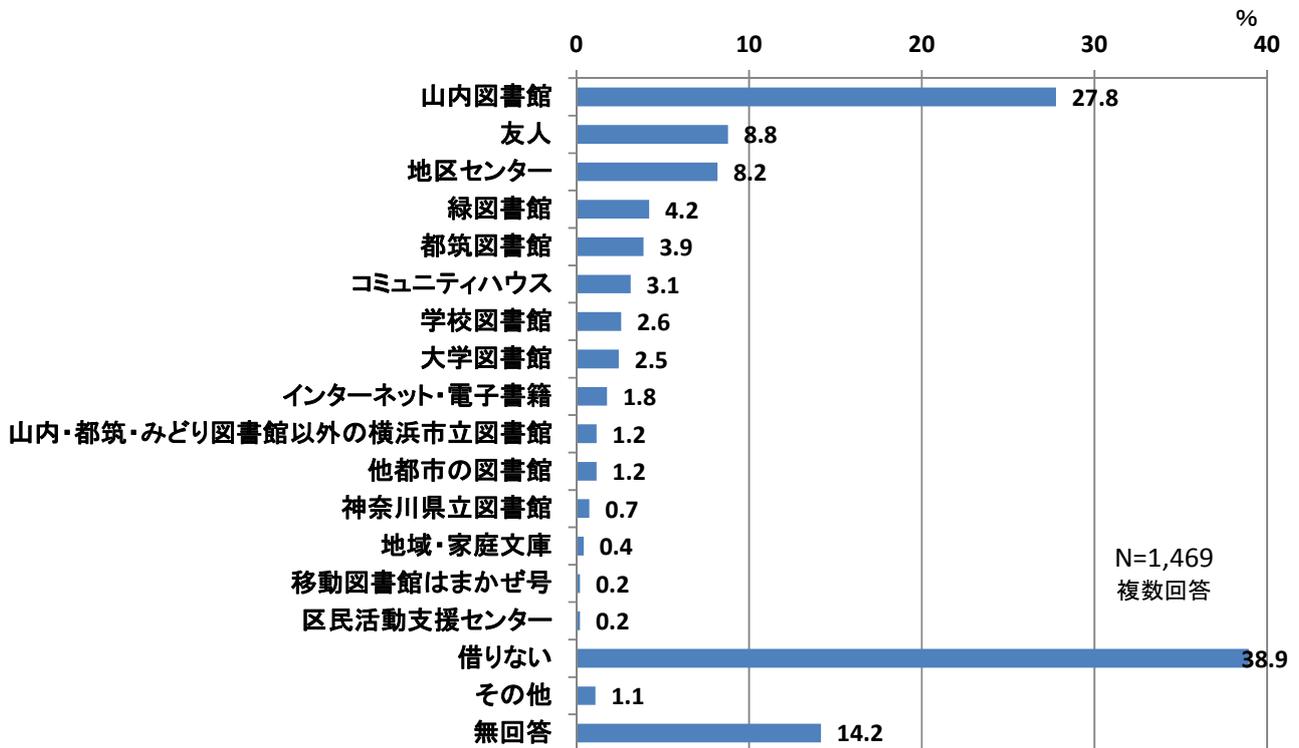


【利用する電子書籍の種類】



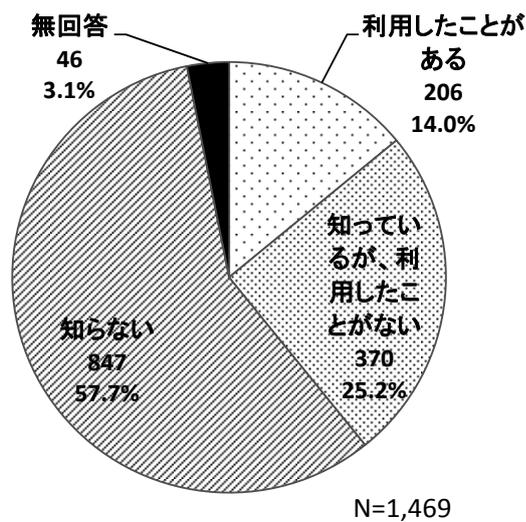
どこから本を借りているか（問 23）

「山内図書館」が最多で約3割で最も多い。



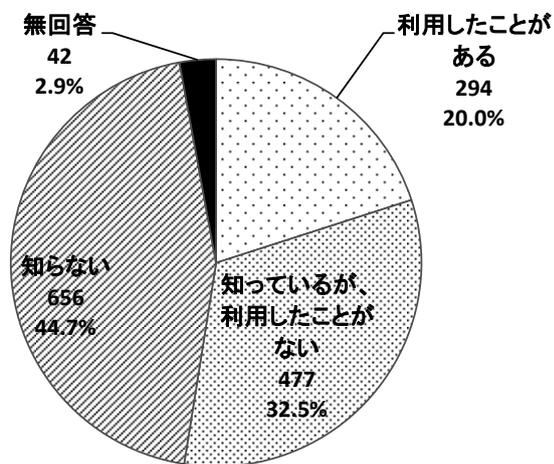
「図書取次サービス」の認知度（問 24）

「知らない」が最も多く6割近くを占める。



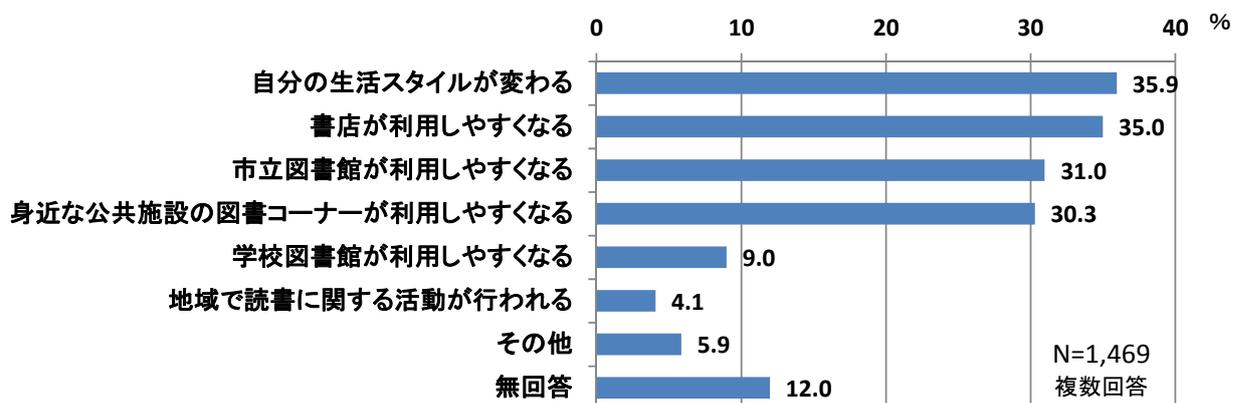
「返却ポスト」の認知度（問 25）

「知らない」が最も多く 4 割強を占める。



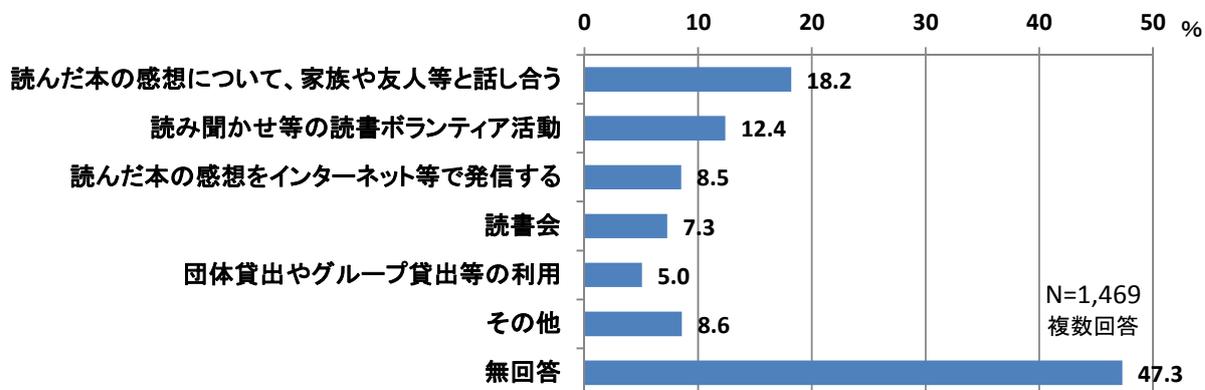
どのようにすればもっと読書ができると思うか（問 26）

「自分の生活スタイルが変わる」「書店が利用しやすくなる」「市立図書館が利用しやすくなる」「身近な公共施設の図書コーナーが利用しやすくなる」が 3 割以上。



現在関わっている、または今後関わってみたい読書に関する活動（問 27）

「読んだ本の感想について、家族や友人等と話し合う」「読み聞かせ等の読書ボランティア活動」が多い。

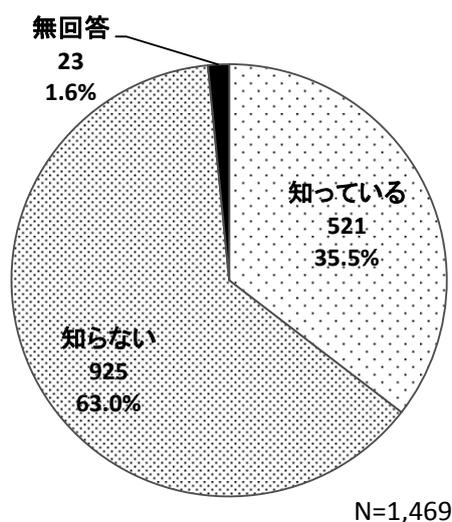


8. 区制 20 周年について

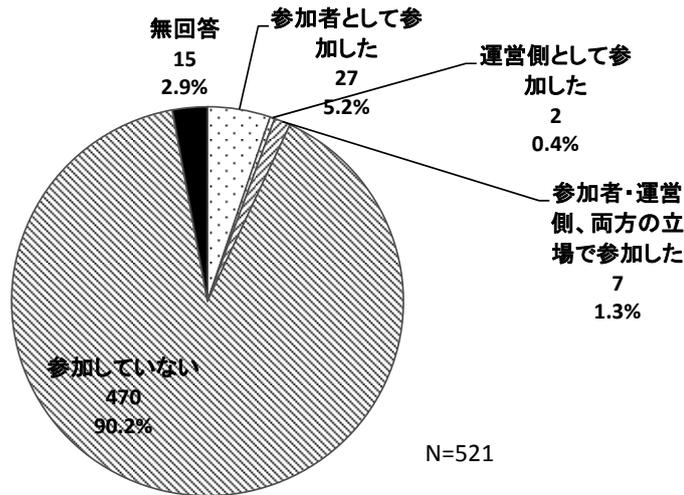
区制 20 周年の認知度（問 28）

「知らない」は 63.0% で全体の 6 割強を占めている。記念事業に「参加していない」は全体の約 9 割を占めている。区制 20 周年を知ったきっかけは 6 割以上が「広報よこはま青葉区版」を挙げている。記念事業をどのように感じるかについては「自分の暮らしている青葉区について、見直す機会になった」が 4 割弱で最多。

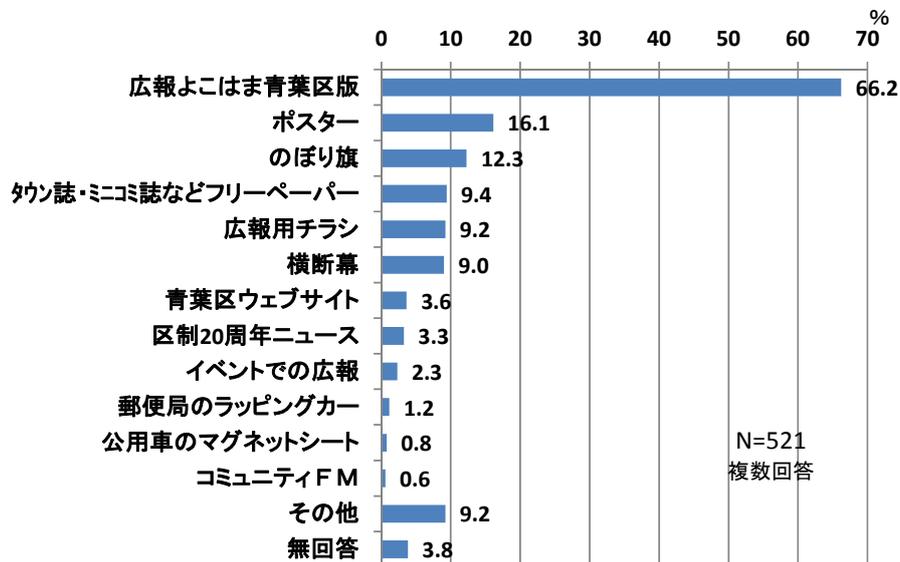
【区制 20 周年の認知度】



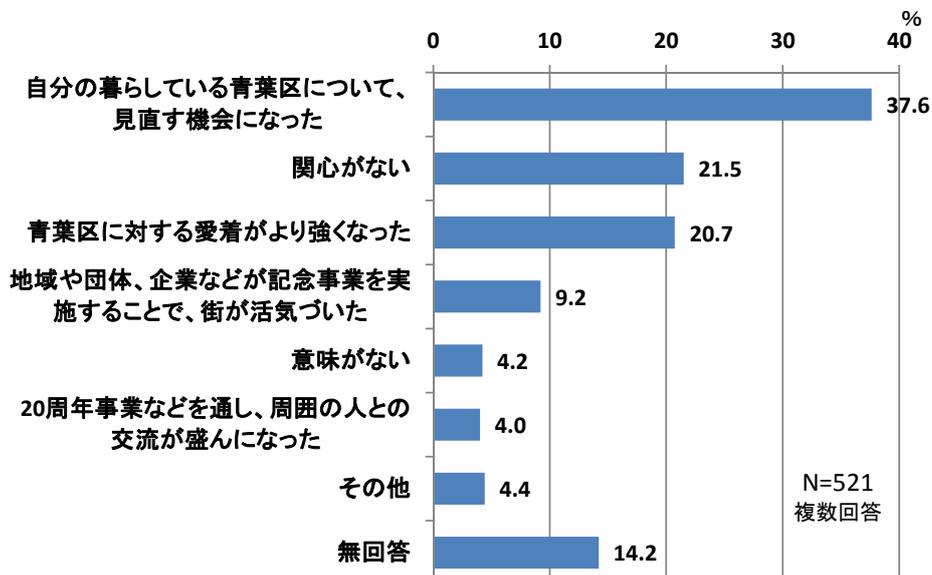
【区制 20 周年事業への参加状況】



【区制 20 周年を知ったきっかけ】

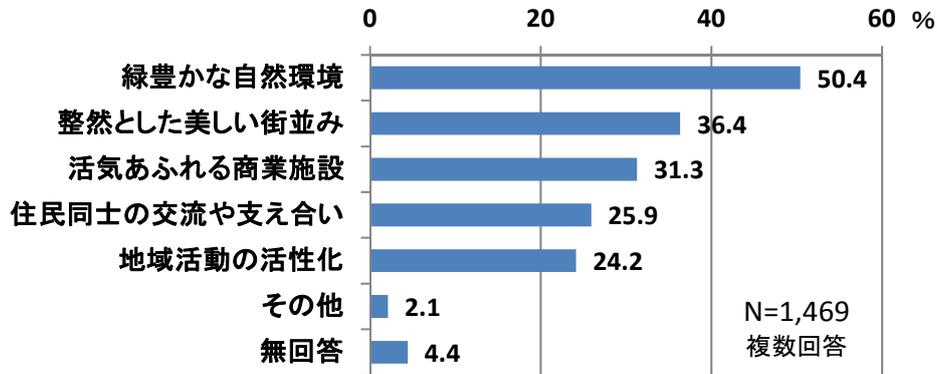


【区制 20 周年に対する所感】



これからの青葉区で大切なこと（問 29）

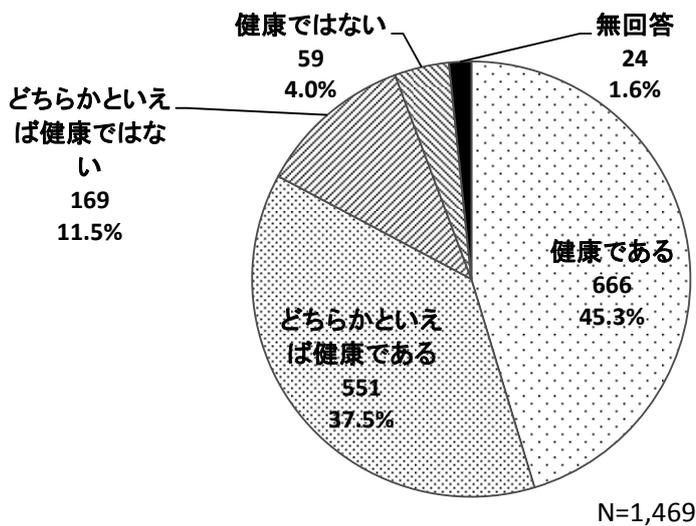
「緑豊かな自然環境」が最も多く、約半数が挙げている。次いで「整然とした美しい街並み」「活気あふれる商業施設」が3割超。



9. 健康について

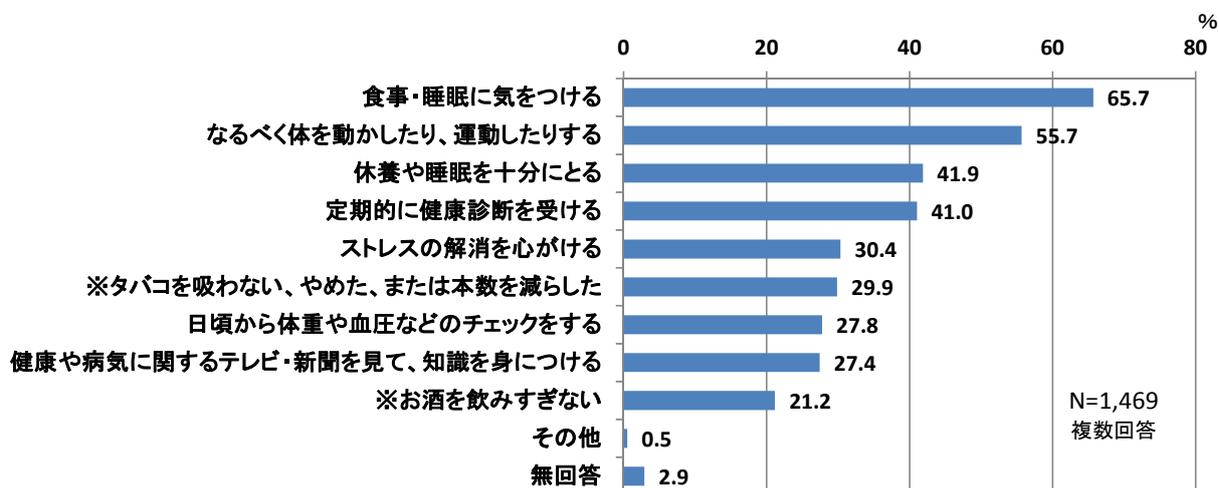
健康状態（問 30）

「健康である」「どちらかという健康である」を合わせると8割以上が自分の健康状態は良いと考えている。



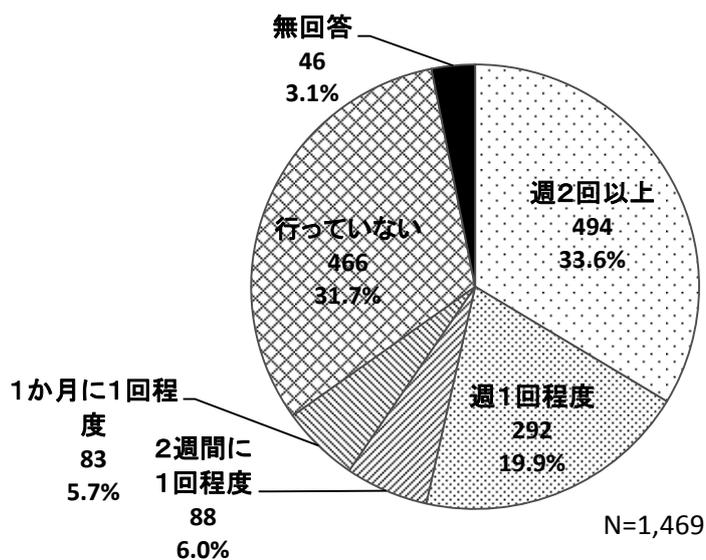
健康のために気をつけていること（問 31）

「食事・栄養に気をつける」が7割弱で最多。次いで「なるべく体を動かしたり、運動したりする」が5割超。



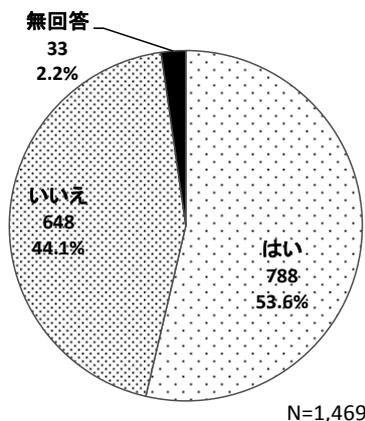
1回30分以上の運動の頻度（問 32）

「週2日以上」「週1回程度」をあわせると、全体の5割強が週1回以上の運動をしていることがわかる。「行っていない」人は3割。



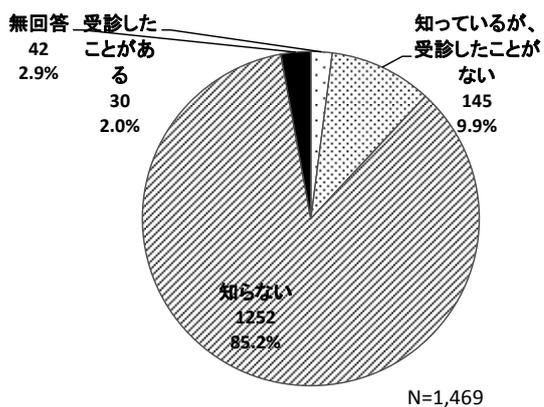
定期的な歯科検診の有無の有無（問 34）

受診している人が 5 割強。



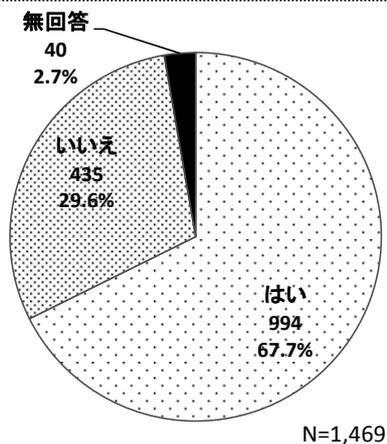
横浜市の歯周疾患検診の認知度（問 35）

「知らない」が 85.2% で 8 割強。受診したことのある人は 2% にとどまっている。



歯周病が、糖尿病・心疾患などの全身疾患と関連があることの認知度（問 35）

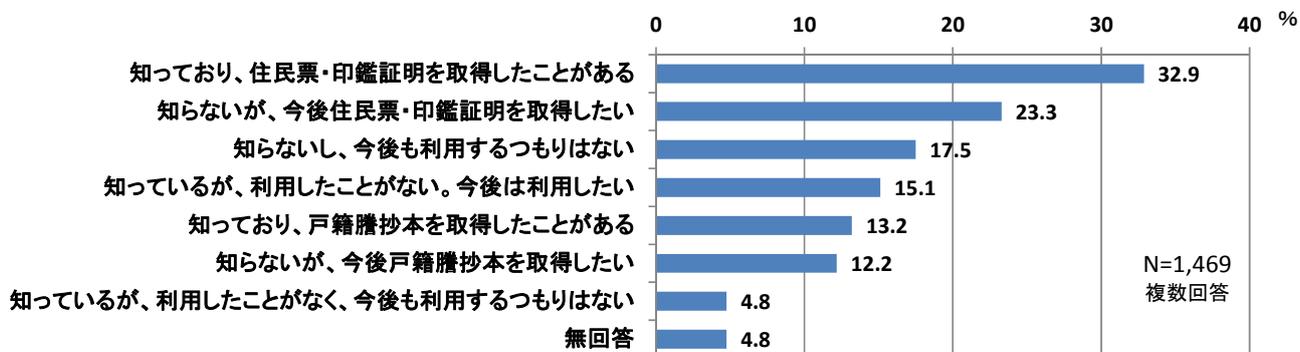
7 割強が認知している。



10. 郵便局での証明発行サービスについて

郵便局での証明発行サービスについて（問 37）

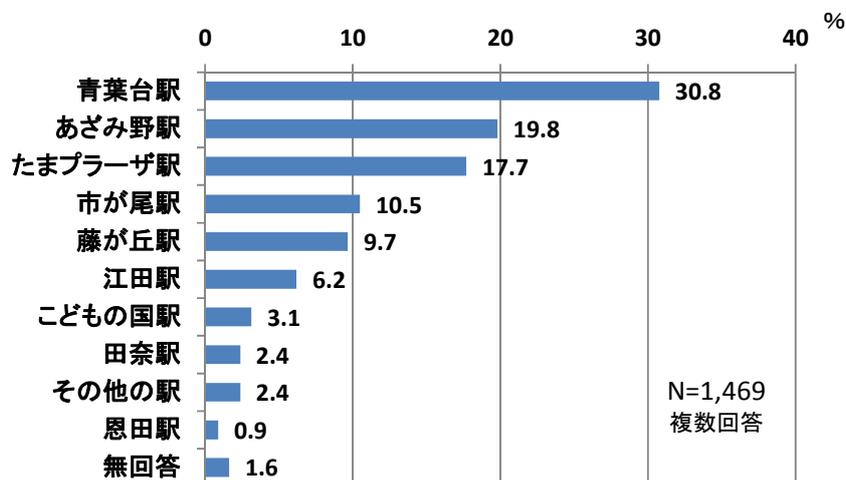
「知っており、住民票・印鑑証明を取得したことがある」が3割超。



11. 駅周辺のまちづくりについて

日常的に最もよく利用する駅（問 38）

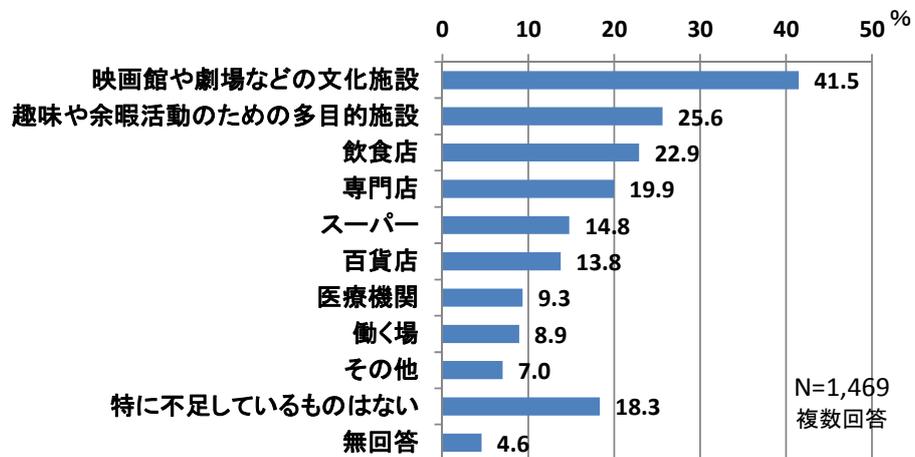
「青葉台駅」が3割。次いで「あざみ野駅」「たまプラーザ駅」が多い。



(注) 設問は「○はひとつだけ」だったが、複数に回答される人が多かったので複数回答扱いとした

普段利用する駅周辺に不足していると思う機能や施設（問 39）

「映画館や劇場などの文化施設」が4割で最多。次いで「趣味や余暇活動のための多目的施設」「飲食店」が2割超。



平成 26 年度 青葉区区民意識調査 調査結果 報告書 概要版

発行日 平成 26 年 8 月

発行 青葉区 総務部 区政推進課 企画調整係
〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町 31 番地 4

TEL 045 (978) 2217

FAX 045 (978) 2410

<http://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/50kusei/research.html>